



学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

理学療法学科

2021年度 シラバス

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
80～100点	評価「優」 単位を認定する。
70～79点	評価「良」 単位を認定する
60～69点	評価「可」 単位を認定する。
60点未満	評価「不可」 単位を認定しない。

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	1年次
科目名	自然科学基礎Ⅰ			担当者	根岸 好男		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	運動・からだ図解 生理学の基本 羊土社						
科目概要	<p>医学教育において大事なことは、人間の身体に興味を持つことである。人間の部品を学ぶことが解剖学であり、その部品がどう働くのかを学ぶのが生理学である。自然科学基礎Ⅰでは、解剖学を基礎とし生理学を同時に学び自分の体のことを楽しく学び取ること为目标とする。医学の初学として学ぶことになるが、国家試験に出題されている内容も豊富に存在している。理学療法士として必要な基礎的であり、重要な内容を一つ一つ確実に学んでいき国家試験合格の一助とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、生命の維持がどう行われているか生理学の基礎として理解する。 2、体の部品（組織、器官）がどう配置されているか名称を理解する。 3、それぞれの部品（組織、器官）の働きについて理解する。 4、国家試験対策としての基礎的な知識を積み上げる。 						
評価方法	前期・後期の期末試験を実施し60点以上を取得単位とする。						
課題に対するフィードバック	<p>アクティブラーニング方式を取り入れる。課題を提起し自ら学んでいけるような環境を作り、自分の頭脳で考えながら楽しく正解を導きだす。時々小テストを行い理解度の低い学生には授業内で個別の指導を行う。</p>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>授業の初めに前回は学んだことを復習する。また、単元ごとに次回授業の課題を提示し、次回の授業時にそれぞれの課題について何らかの疑問を持って授業に臨めるようにする。生活の中に、学習することが習慣となるように促す。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生理学とは何か ホメオスタシスについて	生理学を学ぶ意義と体内環境を一定に保つ仕組み。	
2	成長・発達、老化、骨の働き	発生、成長、発達の違い。骨の働きは骨格のためだけでない。	
3	骨の成長と代謝、骨格筋の構造	骨の成長は骨端線で行われる。骨格筋収縮時の期限繊維の動き。	
4	筋肉の収縮、仕組みと種類	動的運動の筋収縮と性的運動の筋収縮。	
5	運動の指令・伝達と筋収縮	大脳から発せられる運動指令と伝達。刺激の強さと筋肉の収縮の関係。	
6	筋と腱のセンサー、筋収縮のエネルギー、皮膚と付属	筋や腱の伸び過ぎを防ぐ。筋紡錘の働きと伸張反射。	
7	神経系とは、ニューロンと神経の興奮	中枢神経系と末梢神経系の構成。インパルスが伝達される仕組み。	
8	シナプスでの情報伝達、大脳皮質の機能局在	神経伝達物質によって情報が伝達される。大脳皮質の機能と部位。	
9	大脳辺縁系と大脳基底核の働き、記憶の生理、サーカ	本能的行動を司る大脳辺縁系。運動の調整に関わる大脳基底核。短期記憶と長期記憶。睡	
10	間脳の働き、中脳と橋の働き	視床下部の機能。脳幹の基本的な構造と機能。	
11	延髄と小脳の働き	延髄は生命維持活動の中枢。小脳は運動の上達に関わる。	
12	脊髄の働きと脊髄反射のしくみ、髄膜と脳脊髄液	脊髄は中枢と末端を結ぶ中継システム。危険を回避、姿勢を維持する仕組み。脳を保護す	
13	脳神経の働き、脊髄神経とデルマトーム	12対の脳神経と脊髄神経が支配するエリア。	
14	自律神経、交感神経と副交感神経	自律神経の機能。交感神経と副交感神経の走行と神経伝達物質。	
15	期末試験		

回	単元	内容	備考
16	上行性および下行性伝導路、感覚の種類	伝える感覚によるルートの違い。錐体路と錐体外路。2つの体性感覚、内臓感覚と特殊感	
17	血液循環について、心臓の構造と冠状動脈刺激伝導系	体循環と肺循環。冠状動脈の働き。心臓の刺激伝導系と心臓の収縮、心電図の波形。心臓	
18	動脈と血流、静脈還流の仕組み、血圧とその調節	動脈と静脈の構造および走行。自律神経系と内分泌系による血圧調節。	
19	リンパ系の働き、体液の組成と水分出納、体液の酸塩	体液の回収と免疫機能。体重における水分の割合、体液のPHを維持する仕組み。	
20	血液の成分と働き、造血の仕組み、赤血球の働きと寿	血液の成分、血漿と血液細胞の働き。血液細胞のそれぞれの働きと寿命。	
21	止血の仕組み、白血球の種類と貪食作用、	止血機能と止血因子、白血球の貪食機能と免疫機能	
22	体液性・細胞性免疫の仕組み、胸腺と脾臓の働き	体を守る免疫機能システム。胸腺でのT細胞の成熟と脾臓での免疫機能。	
23	呼吸機能とその役割	呼吸の役割。気道、器官、呼吸運動。	
24	ガス交換の仕組みと肺機能、発声のシステム	肺の構造と肺胞でのガス交換。肺機能。発声の仕組み。	
25	消化器機能、口腔、食道、胃、小腸の働きと免疫機	咀嚼と嚥下機能。消化器の運動、胃での消化と腸での消化吸収。膵臓の働きと消化管の免	
26	大腸の構造と働きおよび排便のシステム。	大腸の働きと排便のメカニズム。肝臓の働き。	
27	代謝機能、体温の産生と調整	栄養素とは、エネルギー代謝。糖、蛋白、脂質の代謝。体温の調節。	
28	腎機能、尿生成、排尿の機能。	腎臓の構造と働き。尿生成のメカニズム。排尿のメカニズムと尿管と膀胱の働き。尿量の	
29	内分泌機能、生殖器	ホルモンの働きと内分泌器官。消化管ホルモン。生殖器ホルモンの働き	
30	後期末試験		

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	自然科学基礎Ⅱ			担当者	西浦 昭次		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なし（講義ごとに演習問題プリントを配布）						
科目概要	<p>理学療法士国家試験において計算問題が出題される傾向が高まっている。本講義では、国家試験の計算問題を得点源とするために、高等学校までの算数及び数学の復習、理科（物理）の基礎、統計の基礎を取り扱う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 四則演算できる（整数・小数・分数）。 2. 比について理解できる。 3. 三角比の基礎を理解できる。 4. 理科（物理）の基礎を理解できる。 5. 統計の基礎を理解できる。 						
評価方法	<p>学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、答案を返却する。また、担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については、学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>小学校～高等学校で学習した算数・数学を再復習しておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	中学・高校数学の復習	数学Ⅰ程度までの内容を演習により復習する。	
2	四則演算	整数・小数・分数の四則演算演習	
3	四則演算・文章問題	整数・小数・分数の四則演算演習 平易な文章問題の演習	
4	四則演算・文章問題	整数・小数・分数の四則演算演習 平易な文章問題の演習	
5	平方根	平方根の計算・有理化の演習	
6	比	比の考え方・比の計算の演習	
7	相似 直角三角形の辺の比	相似の考え方・直角三角形の辺の比	
8	三角比	三角比の考え方・有名角の三角比	
9	三角比	三角比の演習	
10	加速度 神経伝達速度	加速度の基本・公式 神経伝達速度の算出	
11	力と仕事	力と質量・運動の法則・仕事と仕事率	
12	ベクトル	ベクトルの基本・ベクトルの演算	
13	てこの計算	モーメント・てこ	
14	運動強度	代謝当量 (METs) ・BMI ・消費エネルギー	
15	統計の基礎	統計の基本と指標	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	社会科学基礎			担当者	尾内 由美子		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	秘書検定3級 クイックマスター 改訂新版（早稲田教育出版） 本校作成ワーク						
科目概要	秘書検定3級の内容を受験対策として学びながら、社会人としての基本的なビジネスマナーと対人コミュニケーション（立ち居振る舞い、敬語の使い方等）を身に付け、実習の際に礼儀正しい行動ができるようにする。						
到達目標	<p>6月の秘書検定3級受験の合格を目指す、以下を基本目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己中心的な幼い考え方ではなく、相手への配慮のできる行動ができること 2. 基本的な敬語の使い方を覚え、電話対応、対人コミュニケーションの際に活用できるようにすること 						
評価方法	秘書検定3級の合否で主な成績を付けるが、その他として授業態度や取り組み方など、学科基準によって総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	秘書検定結果を返却し、知識不足や学習不足の部分を再確認させる。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	自分以外が行動をしていなくても、学習したことを普段の学校生活や実習に活かそうと考えて受講することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	敬語の仕組み①	敬語の仕組み 尊敬語、謙譲語、丁寧語	
2	敬語の仕組み②	接遇用語とクッション言葉 二重敬語	
3	ビジネス文書①	社内文書と社外文書のレイアウト 本文の構成、敬称	
4	ビジネス文書②	郵便知識 グラフ（資料）の作成	
5	電話対応の基本	基本的な電話の受け方と掛け方	
6	習熟度確認①	問題演習（ビジネス文書、記述問題）	
7	一般知識	一般知識用語 会議	
8	接遇の心構え	接遇の心構え 上座・下座、受付のマナー	
9	冠婚葬祭①	冠婚葬祭の基本 慶事・弔事のマナー、水引と上書き	
10	冠婚葬祭②	贈答のマナー、お見舞い ファイリングの基本	
11	秘書の業務①	定型業務と非定型業務	
12	秘書の業務②	上司と秘書の考え方	
13	資質と職務知識①	越権行為・独断専行	
14	資質と職務知識②	定型業務と非定型業務のまとめ	
15	問題演習	過去問題演習・解説	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	社会科学基礎			担当者	小野 浩		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	よくわかる理学療法の検査・測定・評価 秀和システム 理学療法評価学 改訂6版 金原出版 他教員作成資料						
科目概要	理学療法の基礎的な流れを学習し、3年次、4年次の実習で行う検査・測定・評価について学んでいく。そして、模擬症例の症例報告書を模写する事で症例報告書の作成の流れも学習していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①理学療法の基本的な流れを理解でき、概説できる。 ②評価の大切さを概説できる。 ③代表的な理学療法検査項目について概説できる。理解できる。 ④症例報告書（ケースレポート）の作成の流れを理解できる。 ⑤医療分野における効果的な文章の作成ポイントを 						
評価方法	授業態度や出席状況10点、課題発表10点、筆記試験80点の3項目合計で成績判定し、60点以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	小テスト採点後に解説を行う。期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	使用教科書や資料を事前に読み、予習を行うのが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	理学療法実施の流れ	理学療法実施の流れと概要	
2	理学療法評価の意義と目的	理学療法の意義と評価過程について理解する	
3	評価計画の立て方	評価時期と評価計画の立て方について理解する	
4	情報収集	直接的情報収集と間接的情報収集について理解する	
5	医療面接、バイタルサイン	医療面接やバイタルサインについて理解する	
6	四肢長、周径、関節可動域測定	四肢長や関節可動域測定について理解する	
7	反射、筋緊張、感覚検査	反射や筋緊張、感覚検査について理解し、簡単に実施する事ができる	
8	MMT、バランス、疼痛検査	MMTやバランス、疼痛検査について理解し、簡単に実施する事ができる	
9	ADL検査、統合と解釈	各検査項目を踏まえた統合と解釈について理解する事ができて、症例報告書を模写できる	
10	問題解決プロセスについて	帰納法や演繹法、仮設演繹法について理解する	
11	効果的な文章の作成	医療・福祉分野における効果的な文章作成のポイントを理解する	
12	メンタルモデルについて	メンタルモデルについて理解し、簡単に用いる事ができる	
13	効果的な文章の5つの基本技術	5つの基本技術について理解する	
14	効果的な文章を伝えるための9つの基礎知識	9つの基礎知識について理解する	
15	後期期末試験	後期行った範囲内での期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	実習
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	情報科学			担当者	関口 幸治		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	「30時間でマスター office2019」実教出版						
科目概要	理学療法士として必要な情報の収集や分析が出来るよう、また、医療施設において必要なコンピュータ操作ができるように、パソコンの基礎から、ワープロソフトでの文書作成、表計算ソフトでの計算処理、プレゼンテーションソフトでのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。						
到達目標	1.パソコンの基礎知識（OS、ブラウザ、操作方法）の習得 2.ワープロソフトで実務的文書（ビジネス文書、連絡・報告書など）の作成ができる。 3.表計算ソフトで実用的（会計処理、統計計算、成績処理など）な表計算処理ができる 4.プレゼンテーションソフトで効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。						
評価方法	ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれ単元終了後に、与えられた課題をもとに作品を完成させ提出。 クリアしなければならない項目が70%以上で合格。						
課題に対するフィードバック	作品提出後、問題の完全解説をクラス全体に行う。細かい質問は個別対応する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピュータ基礎	OS (Windows10) の基礎 ファイルとフォルダ・ブラウザの使い方	
2	Word基礎	Wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力	
3	文章入力・書式	ビジネス文書の構成、文書の装飾	
4	表・画像・図形の挿入	表を活用した文書の作成 画像や図形を活用した文書の作成	
5	Word評価テスト	問題に沿って文書作成・提出 問題完全解説	
6	Excel基礎	Excelの画面構成 データ入力	
7	ワークシート編集・計算式	計算式の作り方 関数を使った表計算	
8	グラフ作成	様々なグラフの作成方法 グラフのカスタマイズ	
9	条件判定・検索関数	IF関数による条件判定・複合条件 VLOOKUP関数による検索	
10	便利な機能	データの並べ替え、抽出 Wordとの連携	
11	Excelテスト	問題に沿ってワークシート作成・提出 問題完全解説	
12	PowerPoint基礎	PowerPointの画面構成 スライドの作成	
13	表や画像の活用	アニメーションの付け方 スライドショーの設定	
14	PowerPointテスト	問題に沿ってプレゼンテーション作成・提出 問題完全解説	
15	ビジネスメール	アウトルックを使ったビジネスメールの基本、宛先の入れ方、添付ファイル等	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	医学英語			担当者	井波 敬三		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	学生のためのカレントメディカルイングリッシュ(Current Medical English)						
科目概要	リハビリテーション医学で修得すべき英語の専門用語集を使用し、難解な専門用語を理解する。Current Medical Englishでは、ストレス、骨粗鬆症など高校までとは違った内容の理解を促す。						
到達目標	リハビリ専門用語（日本語→英語、英語→日本語）が理解できる。 医学に関連した内容の平易な英語文が理解できる。						
評価方法	授業数回終了のたびに毎回30問ずつ専門用語（英語）のライティングテストを行う。年間で総合点を出す。また、前期、後期末にテキストの内容理解の筆記試験を行う。毎回授業で出席を取るたびに学生一人一人に1分以内のスピーチ（出身校、出身地、趣味、得意なスポーツ、家族、行きたい旅行先など）をさせ、総合評価する。						
課題に対するフィードバック	採点后、成績不振者はノート提出して、医学英語の習得を目指す。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	基本的な英語文法の習得チェックをする。 スピーチ練習を通して基礎学力の確認を行う。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	introduction	授業の進め方の説明、ノートの使い方、 テスト方法の説明	
2	word test	word test 1~30、speech	
3	ストレスは万病のもと	ストレスの本文reading,speech	
4	word test	word test31~60 speech	
5	ストレスは万病のもと	stress exercise.speech	
6	word test	word test 61~90、speech	
7	ストレスは万病のもと	単元のまとめ、reading,exercise.speech	
8	老いも若きも骨粗鬆症に ご注意を	骨粗鬆症本文reading .speech	
9	word test	wordtest 91~122 speech	
10	老いも若きも骨粗鬆症に ご注意を	osteoporosis本文reading .speech	
11	骨粗鬆症(osteoporosis)	osteoposisis.exercise .speech	
12	word test	wordtest 2 nd.1~30 speech	
13	骨粗鬆症(osteoporosis)	osteoporosis.exercise .speech	
14	word test	wordtest 2nd.31~ 60 speech	
15	テキストテスト	stress ,osteoporosis test	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	3年次
科目名	医療倫理学			担当者	奥木 巧		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なし 講義ごとにプリント配布						
科目概要	医療者として、将来直面すると思われる状況にどう対処すべきかについて、さまざまな角度から検討することにより、各学生自身に「医療者になる」ということを再度問いかける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療に関係する問題について理解できたか。 2 医療に関係する問題について自己の向き合い方・スタンスを確立する必要性が理解できたか。 						
評価方法	学科の規定による。						
課題に対するフィードバック							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療倫理	「倫理」と「医療倫理」	
2	倫理学	「徳の倫理」と「原則の倫理」	
3	倫理学	「アリストテレスの倫理学」と「功利主義の倫理学」	
4	倫理学	「コンパッション」と「ケアリング」	
5	倫理学	「アドボカシー」と「パターナリズム」：患者の自己決定に向けて	
6	医療者の責任	「倫理的責任」と「法的責任」	
7	インフォームドコンセント	「インフォームド・コンセント」の重要性	
8	アセスメント	「アセスメント」と「戦略的思考」	
9	トリアージ	緊急時における「トリアージ」の意味	
10	患者の言葉	「患者の言葉」に耳を傾ける：「患者の言葉」はメタファー	
11	現代医療の問題	「地域医療」と「高齢社会」	
12	現代医療の問題	「終末期医療」の倫理的諸問題	
13	状況設定 1	① I 型糖尿病（小児） ② 老老介護	
14	状況設定 2	① ターミナルケアと QOL ② 精神保健	
15	状況設定 3	① 守秘義務と医療責任 ② 傷病者の自己決定権	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実技
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	保健体育			担当者	原田 恵子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なし						
科目概要	<p>さまざまな運動・スポーツの実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成する。また、健康とスポーツについて理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めるとともに、仲間とのコミュニケーションを深めていく。</p>						
到達目標	<p>1・運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 2・生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付けるとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p>						
評価方法	<p>①授業中の意欲・関心・態度 ②技能 ③思考・判断 ④出席状況の4観点を点数化し総合的に判断する。総合点60点以上得点したものに単位を認定する。 評価基準・・・80点以上 A、79～70点 B、69～60点 C、60点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。</p>						
課題に対するフィードバック							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	体育実技	ストレッチ・体づくりトレーニング	
2		バレーボール	
3		バレーボール	
4		バレーボール	
5		バレーボール	
6		バレーボール	
7		球技大会	
8		球技大会	
9		サッカー	
10		サッカー	
11		ソフトボール	
12		ソフトボール	
13		バドミントン	
14		バドミントン	
15		リクエスト種目	

回	単元	内容	備考
16	体育実技	バドミントン	
17		バレーボール	
18		ソフトボール	
19		バスケットボール	
20		合同体育によるクラス対抗戦 (サッカー)	
21		合同体育によるクラス対抗戦 (サッカー)	
22		合同体育によるクラス対抗戦 (バレーボール)	
23		合同体育によるクラス対抗戦 (バレーボール)	
24		合同体育によるクラス対抗戦 (バドミントン)	
25		合同体育によるクラス対抗戦 (バドミントン)	
26		合同体育によるクラス対抗戦 (バスケットボール)	
27		合同体育によるクラス対抗戦 (バスケットボール)	
28		合同体育によるクラス対抗戦 (卓球/ドッチボール)	
29		合同体育によるクラス対抗戦 (卓球/ドッチボール)	
30		リクエスト種目	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科				配当時間	120	対象年次 1年次
科目名	解剖学Ⅰ				担当者	佐藤 友彦	
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	PT・OTビジュアルテキスト解剖学第1版(羊土社) プロメテウス解剖学コアアトラス第3版(医学書院) 、レジュメ(教員作成)						
科目概要	多くの医学的知識の基本となる解剖学を10種類の器官系に分け、各器官系ごとに1年間をかけ学ぶ。初学者にもわかりやすく学んでもらう為にテキストと解剖学アトラス、レジュメを使用し多くの図表を示しながら講義を進める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10系統の器官系の詳細な構造と概論的な機能について理解する。 2. 運動器・神経系・循環器について詳細な構造を理解する。 3. 国家試験に対応できる知識を身につける。 4. 臨床場面に必要な解剖学的知識を身につける。 						
評価方法	前期(中間試験・期末試験)、後期(中間試験・期末試験)を実施する。						
課題に対するフィードバック	各講義の終盤に国家試験の過去問を解かせ、学んだ内容がどのように国家試験で問われるか確認させる。また、授業の冒頭で小テストを行い、前回の講義で学んだ知識が定着しているかを確認する。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	各回の講義の内容を復習することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖学総論 人体の区分と解剖学用語	体幹・体肢・体腔の詳細な区分、 水平面・前額面・矢状面の区別	
2	上肢帯の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	肩甲骨と鎖骨で構成される 上肢帯の骨格を詳細に学ぶ	
3	上肢帯の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	上肢帯の連結(靭帯) "三角筋、棘上筋など 上肢帯に付く筋の構造と作用"☒	
4	自由上肢(上腕骨)の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	上腕骨の詳細な構造	
5	自由上肢(前腕)の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	橈骨・尺骨の詳細な構造	
6	自由上肢(手部)の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	手部の詳細な骨格	
7	自由上肢(肩関節)の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	上肢帯と上腕骨の連結(靭帯)	
8	自由上肢(手部)の解剖 骨格・靭帯・関節・筋	前腕の骨と手部の骨の連結(靭帯)	
9	上腕の筋	上腕二頭筋、上腕三頭筋など 上腕にある筋の構造と作用	
10	前腕の筋	円回内筋、浅指屈筋など 前腕にある筋の構造と作用	
11	手の筋	母指球筋、小指球筋の構造と作用	
12	下肢の骨格(1)	寛骨と仙骨で構成される骨盤の構造と機能	
13	下肢の骨格(2)	大腿骨の詳細な構造	
14	下肢の骨格(3)	脛骨・腓骨の詳細な構造 足根骨、足趾の骨の詳細な構造	
15	下肢帯の連結 靭帯・関節	寛骨と仙骨の連結(靭帯)	

回	単元	内容	備考
16	股関節の連結 関節	骨盤と大腿骨の連結(靭帯)	
17	膝関節の連結 関節と靭帯	大腿骨と脛骨・腓骨の連結(靭帯)	
18	足の連結 関節と靭帯	脛骨・腓骨と足根骨の連結(靭帯)	
19	下肢帯の筋	腸腰筋、大殿筋など 下肢帯から大腿に付く筋の構造と作用	
20	大腿の筋	縫工筋、大腿四頭筋など 大腿にある筋の構造と作用	
21	下腿の筋・足の筋	前脛骨筋、腓腹筋など 下腿にある筋の構造と作用 足部の筋	
22	骨格系：脊柱と椎骨	頸椎、胸椎、腰椎・仙椎の詳細な構造	
23	胸郭の骨格	胸郭を構成する胸椎・肋骨・胸骨の詳細な構造	
24	胸部の筋と呼吸筋	大胸筋、小胸筋など 胸郭にある筋の構造と作用	
25	背部・腹部の筋	僧帽筋、腹直筋など 背部、腹部にある筋の構造と作用	
26	頸部の筋	胸鎖乳突筋や斜角筋など 頸部にある筋の構造と作用	
27	頭部の筋	表情筋、外眼筋など 頭部にある筋の構造と作用	
28	人体の構成／細胞	受精卵から個体発生までの分化、 細胞内小器官の構造と機能	
29	人の構成／組織	上皮組織、支持組織など 人体を構成する組織の構造と機能	
30	骨学総論（1）	骨の組織学的構造と形状による分類	

回	単元	内容	備考
31	骨学総論（2）	骨の分化と成長、骨のリモデリング	
32	関節と靭帯：総論	頭蓋骨・椎骨の連結、関節包の構造	
33	筋系総論： 骨格筋の構造と作用	筋の起始・停止、関節の運動方向	
34	骨格系：頭蓋骨（1）	頭蓋骨の詳細な構造	
35	骨格系：頭蓋骨（2）	内・外頭蓋底の詳細な構造	
36	頭蓋の連結/ 脊柱と頭蓋の連結	頭蓋骨と下顎骨の連結(靭帯)、 頭蓋骨と脊椎の連結(靭帯)	
37	神経系：神経系の構造	神経細胞の構造と機能、脳室	
38	神経系：中枢神経系（1）	脊髄から延髄の詳細な構造	
39	神経系：中枢神経系（2）	橋・中脳・間脳の詳細な構造	
40	神経系：中枢神経系（3）	大脳の詳細な構造と機能局在	
41	神経系：中枢神経系（4）	小脳の詳細な構造と機能	
42	神経系：末梢神経系（1）	脳神経の構成、構造、機能	
43	神経系： 上行性伝導路・下行性伝導路	感覚性伝導路と運動性伝導路の走行と機能	
44	神経系：末梢神経系（2）	皮膚分節と頸神経の構造と機能	
45	神経系：末梢神経系（3）	腕神経叢の構造と機能	

回	単元	内容	備考
46	神経系：末梢神経系（4）	胸神経の構造	
47	神経系：末梢神経系（5）	腰神経と仙骨神経の構造	
48	循環器系：心臓の構造	心臓の構造と心臓の栄養血管	
49	循環器系：動脈の構造（1）	大動脈から分岐する主な血管	
50	循環器系：動脈の構造（2）	鎖骨下動脈から分岐する主な血管	
51	循環器系：静脈系の構造	上大静脈、下大静脈、門脈系の構造	
52	循環器系：リンパ系	全身のリンパ系の概略およびリンパ管の構造	
53	呼吸器系の構造と機能(1)	気道の構造と機能、ガス交換の仕組み	
54	呼吸器系の構造と機能(2)	肺の構造と機能、呼吸生理概論	
55	消化器系の構造と機能(1)	口腔から直腸までの構造	
56	消化器系の構造と機能(2)	消化器系の生理概論	
57	内分泌系の構造と機能(1)	内分泌器官の構造	
58	内分泌系の構造と機能(2)	内分泌器官の生理とホルモンの作用	
59	泌尿器系の構造と機能	腎臓の構造と泌尿器系の生理概論	
60	感覚器系の構造と機能	感覚器の構造と生理	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	生理学Ⅱ			担当者	佐藤 友彦		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	新生理学Qシリーズ(日本医事新報社)、クエスチョンバンクPT・OT専門基礎レジュメ(教員作成)						
科目概要	2年次に修得した生理学の知識を評価実習、臨床実習、国家試験に必要な分野にしばって総復習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10系統の器官系の国家試験に頻出の生理学的知識を復習する。 2. 評価・臨床実習に必要な解剖学的知識を身につける。 						
評価方法	前期期末試験、後期期末試験)を実施する。						
課題に対するフィードバック	各講義の終盤に国家試験の過去問を解かせる。 教員による国家試験の解法を伝える。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	各回の講義の内容を復習することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	代謝	体温調節、基礎代謝	
2	血液	血液の組成、血球の働き	
3	免疫	リンパ系の機能、アレルギー	
4	循環(1)	心臓の機能、ペースメーカー、刺激伝導系	
5	循環(2)	心拍数、心拍出量、血圧	
6	循環(3)	運動時の生体反応	
7	呼吸(1)	酸・塩基平衡	
8	呼吸(2)	運動時の呼吸、酸素解離曲線	
9	呼吸(3)	呼吸中枢、呼吸筋の構造と機能	
10	消化と吸収(1)	摂食・嚥下機能	
11	消化と吸収(2)	消化酵素	
12	消化と吸収(3)	肝・胆・膵の構造と機能	
13	排泄(1)	排尿のメカニズム	
14	排泄(2)	排便のメカニズム	
15	内分泌(1)	内分泌総論(フィードバック機構)	

回	単元	内容	備考
16	内分泌(2)	ホルモンの種類と機能	
17	生殖(1)	男性の生殖生理	
18	生殖(2)	女性の生殖生理	
19	筋生理(1)	平滑筋・骨格筋の区分と収縮機構	
20	筋生理(2)	運動単位、筋紡錘・ゴルジ腱器官の機能	
21	神経生理(1)	神経線維分類、活動電位の伝導	
22	神経生理(2)	中枢神経の機能、自律神経の機能	
23	感覚と受容器	刺激と受容器	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	120	対象年次	2年次
科目名	生理学			担当者	岡田 淳一		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	「生理学テキスト」 文光堂、視聴覚教材						
科目概要	講義と演習により理学療法士・作業療法士に必要な生理学の知識を習得する。						
到達目標	1年次に習得した人体の構造の知識を基礎として、人体の機能を植物性機能から動物性機能に至るまで理解することを目標とする。						
評価方法	前期(中間試験・期末試験)、後期(中間・期末試験、レポートの結果、出席状況、授業態度等を総合的に判断し60点未満を不合格とする。☒						
課題に対するフィードバック	1. 中間試験、期末試験を実施し結果を公表する。 2. 不合格者には再試験を行う。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	各回の講義の内容を復習することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生理学の基礎 1	生理学とは	
2	生理学の基礎 2	受動輸送と能動輸送	
3	神経の基本構造 1	神経細胞と興奮の伝導	
4	神経の基本構造 2	膜電位	
5	神経の基本構造 3	興奮発生とイオンチャンネル	
6	神経の基本構造 4	興奮伝導	
7	骨格筋の機能 1	骨格筋の構造	
8	骨格筋の機能 2	運動機能の調節	
9	骨格筋の機能 3	中枢神経系の高次機能	
10	骨格筋の機能 4	感覚一般と体性感覚	
11	シナプス伝達 1	神経筋伝達	
12	シナプス伝達 2	中枢神経系のシナプス伝達	
13	シナプス伝達 3	神経伝達物質	
14	自律神経系 1	自律神経系の構造と作用	
15	自律神経系 2	自律神経系の受容体	

回	単元	内容	備考
16	運動系 1	脊髄	
17	運動系 2	脳幹と小脳	
18	運動系 3	大脳皮質と大脳基底核	
19	感覚 1	体性感覚と上行性伝道路	
20	感覚 2	味覚と嗅覚	
21	感覚 3	聴覚と前庭感覚	
22	感覚 4	視覚	
23	脳の統合機能 1	大脳皮質の構造と機能	
24	脳の統合機能 2	大脳辺縁系と視床下部	
25	脳の統合機能 3	睡眠と脳波	
26	脳の統合機能 4	学習と記憶	
27	血液 1	血液の成分	
28	血液 2	血液凝固	
29	血液 3	血液型	
30	血液 4	免疫	

回	単元	内容	備考
31	心臓 1	心臓の構造と興奮	
32	心臓 2	心電図と心周期	
33	循環 1	血行力学（1）	
34	循環 2	血行力学（2）	
35	循環 3	循環調節	
36	循環 4	微小循環	
37	循環 5	特殊領域の循環	
38	呼吸 1	肺の構造	
39	呼吸 2	気道の機能	
40	呼吸 3	呼吸運動	
41	呼吸 4	呼吸力学とガス交換	
42	呼吸 5	呼吸運動の調節	
43	消化と吸収 1	消化管の構造と神経支配	
44	消化と吸収 2	消化管の運動	
45	消化と吸収 3	消化液の分泌	

回	単元	内容	備考
46	消化と吸収 4	栄養素の分解と吸収	
47	内分泌 1	ホルモンの作用機序	
48	内分泌 2	視床下部と下垂体	
49	内分泌 3	副腎髄質と副腎皮質	
50	内分泌 4	甲状腺と上皮小体	
51	内分泌 5	膵臓の内分泌機能	
52	生殖 1	生殖生理	
53	生殖 2	性ホルモン	
54	腎機能 1	腎臓の構造	
55	腎機能 2	クリアランス	
56	腎機能 3	再吸収と分泌	
57	腎機能 4	排尿	
58	酸塩基平衡	酸塩基平衡と異常	
59	代謝と体温 1	栄養と代謝	
60	代謝と体温 2	体温とその調節機構	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	解剖学Ⅱ			担当者	佐藤 友彦		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	PT・OTビジュアルテキスト解剖学第1版(羊土社)、クエスチョンバンクPT・OT 専門基礎、プロメテウス解剖学コアアトラス第3版(医学書院)、 レジュメ(教員作成)						
科目概要	1年次に修得した解剖学の知識を評価実習、臨床実習、国家試験に 必要な分野にしばって総復習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10系統の器官系の国家試験に頻出の解剖学的知識を復習する。 2. 評価・臨床実習に必要な解剖学的知識を身につける。 						
評価方法	前期期末試験、後期期末試験)を実施する。						
課題に対する フィードバック	各講義の終盤に国家試験の過去問を解かせる。 教員による国家試験の解法を伝える。						
履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)	各回の講義の内容を復習することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	神経系の構造(1)	大脳の機能局在、脳幹・脊髄の構造 etc.	
2	神経系の構造(2)	末梢神経の構造、伝道路、脳神経 etc.	
3	循環器の構造(1)	脳血管の走行	
4	循環器の構造(2)	心臓の構造、冠状動脈の走行、刺激伝導系	
5	循環器の構造(3)	全身の動・静脈の走行、門脈	
6	消化器系の構造(1)	食道の構造と機能	
7	消化器系の構造(2)	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能	
8	呼吸器系の構造(1)	肺胞と肺野	
9	呼吸器系の構造(1)	気道の構造	
10	泌尿器系の構造(1)	腎臓の構造	
11	泌尿器系の構造(2)	膀胱、尿路	
12	骨格系の構造(1)	頭蓋骨の構造	
13	骨格系の構造(2)	四肢、体幹の骨の構造	
14	筋系の構造(1)	頭頸部、体幹の筋	
15	筋系の構造(2)	上肢の筋	

回	単元	内容	備考
16	筋系の構造(3)	下肢の筋	
17	演習(1)	解剖学模擬試験	
18	演習(2)	解剖学模擬試験	
19	演習(3)	解剖学模擬試験	
20	演習(4)	解剖学模擬試験	
21	演習(5)	解剖学模擬試験	
22	演習(6)	解剖学模擬試験	
23	演習(7)	解剖学模擬試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	90	対象年次	1年次
科目名	運動学Ⅰ			担当者	横山 大輝 大塚 智文		
<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎運動学、 運動療法のための機能解剖学的触診技術、配布資料						
科目概要	身体運動の科学と定義される運動学は、医学、物理学、心理学、社会学など多くの学問を統合したものである。例えば、人間の運動は、主として筋肉の収縮によって骨が動きなされるが、それは重力といった地球で暮らす上では常に受ける外力を踏まえてのことである。加えて、楽しいとき、落ち込んでいるとき、ともに姿勢や運動が変化するように、心理が運動に及ぼす影響も多大なものである。よって、運動とひとことと言っても様々な分野が関わりがあることから、幅広い分野の学習をすすめていく。						
到達目標	1、人体の運動に関わる筋・骨格系、神経系の名称と働きについて理解する 2、各関節運動学について理解する 3、運動学的分析、運動力学的分析について理解する 4、姿勢・動作における基本的知識を理解し、「臨床運動学」の講義に向けた基礎知識を習得する						
評価方法	単元ごとの小テスト並びに、中間・期末テストの点数から総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	各単元ごとの小テストの返却及び解説の実施。 本試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	毎講義で小テストを実施する為、前回講義までの内容を復習しておく。 同時期に学習している解剖学について、理解を深めておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション、 関節構成の要素について	運動を表す用語、簡単な関節構成について学習する	
2	下肢帯（骨盤）の構造	骨盤の構造・運動について学習する	
3	股関節の構造	股関節解剖、筋の働きを学習する	
4	内転筋の構成	内転筋群の運動学について学習する	
5	大腿（前面）	大腿前面筋、膝蓋骨の働きについて学習する	
6	大腿（後面）	大腿後面筋について学習する	
7	スクリーホーム ムーブメント	膝関節の運動学について学習する	
8	下腿の筋	下腿の筋について学習する	
9	足関節の構造	足関節解剖、運動学について学習する	
10	足の変形	足の変形について学習する	
11	脊柱の構成	脊柱の解剖について学習する	
12	脊柱の運動	各脊椎の特徴、運動学について学習する	
13	体幹筋（前面）	体幹前面の筋について学習する	
14	体幹筋（後面）	体幹後面の筋について学習する	
15	復習	前期期末試験について復習	

回	単元	内容	備考
16	体幹固定作用、呼吸	先行性随伴性収縮、呼吸筋について学習する	
17	肩関節の構造	肩関節解剖について学習する	
18	肩関節の運動①	肩甲骨の動き、連動性について学習する	
19	肩関節の運動②	ローテーターカフ、フォースカップルなどの肩関節運動学について学習する	
20	肘関節	肘関節解剖、運動学について学習する	
21	上腕、前腕の筋	上腕前腕の筋について学習する	
22	手関節	手関節の運動、手内在筋について学習する	
23	顔面筋	顔面筋の作用について学習する	
24	生体力学①	身体とてこについて学習する	
25	生体力学②	重力とモーメントについて学習する	
26	運動学習	理学療法に必要な運動学習について学習する	
27	国家試験過去問	過去15年分の国家試験を解く	
28	国家試験過去問	過去15年分の国家試験を解く	
29	予備	予備	
30	期末試験	期末試験を実施する	

回	単元	内容	備考
31	姿勢①	姿勢制御、姿勢の安定性	
32	姿勢②	姿勢の記載	
33	姿勢③	立位姿勢の筋活動、安定性、姿勢戦略、異常	
34	歩行と走行①	歩行周期①	
35	歩行と走行②	歩行周期②	
36	歩行と走行③	運動学的分析	
37	歩行と走行④	運動力学的分析	
38	歩行と走行⑤	エネルギー代謝	
39	歩行と走行⑥	小児、高齢者の歩行	
40	歩行と走行⑦	歩行の神経機構、異常歩行	
41	歩行と走行⑧	走行	
42	運動発達①	胎児および小児の運動発達	
43	運動発達②	胎児および小児の運動発達②	
44	運動学習	運動学習、運動技能	
45	筆記試験		

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	運動学II			担当者	横山 大輝		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	基礎運動学、運動療法のための機能解剖学的触診技術、配布資料						
科目概要	運動はあらゆる動作の基本となり、日常生活を営む上では欠かせないことである。関節や筋の構造、生態力学など様々な因子が関わることもあり、多方面から学習する必要がある分野である。講義は骨模型や実技等も混え、アクティブラーニングを中心にすすめる。						
到達目標	1、人体の運動に関わる筋・骨格系、神経系の名称と働きについて理解する 2、各関節運動学について理解する 3、運動学的分析、運動力学的分析について理解する 4、国家試験問題が解ける知識を身につける						
評価方法	単元ごとの小テスト並びに、期末テストの点数から総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	各単元ごとの小テストの返却及び解説の実施。 本試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	毎講義で小テストを実施する為、前回講義までの内容を復習しておく。 これまで学んできた解剖学、生理学、運動学を中心に理解を深めておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション	本講義進行の仕方、評価方法の説明	
2	上肢帯の構造	肩関節を広義で捉え、各名称を触診も混じえ学習する。	
3	肩フォースカップル理論	肩関節の運動における筋の連動した働きについて学習する。	
4	肘関節の運動学	野球肘を例に挙げ、肘関節の運動学について学習する。	
5	手関節の運動学	前腕筋の触診、及び手関節の運動学について学習する。	
6	手内在筋、手指変形について	内在筋の解剖学を学習する。手指変形について学習する。	
7	骨盤周辺の解剖について	骨盤帯の解剖や名称など、触診を通じて学習する。	
8	大腿筋の運動学	触診及び運動を交えながら大腿筋の働きを学習する。	
9	外旋6筋の働きについて	深層筋である外旋6筋の働き、運動を学習する。	
10	股関節の運動学	股関節運動時における関節運動学、リバースアクション等、筋との関わりについて学習する。	
11	股関節周囲の疾患	股OAなどの疾患を例に挙げ、股関節の運動学について学習する。	
12	膝関節の解剖	膝関節の解剖を触診を通じて学習する。	
13	足関節の運動学	ウィンドラス機構など、足部の複雑な運動を学習する。	
14	足関節の運動と筋との関係	筋との関わりについて学習する。	
15	復習	前期範囲について復習	

回	単元	内容	備考
16	脊柱の解剖について	脊柱の解剖について触診を通じて学習する。	
17	脊柱の運動について	腰椎骨盤リズムなど、脊柱が関わる運動がについて学習する。	
18	生体力学について	国試関わる計算問題について学習する。	
19	床半力と動き	床半力と動きについて学習する。	
20	運動と動作の分析	運動学的分析、筋電図について学習していく。	
21	顔面筋	顔面筋の作用について学習する。	
22	運動学習	運動学習、運動技能	
23	復習	後期範囲について復習	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	人間発達学			担当者	宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	教科書、プリント、動画						
科目概要	人が動作を獲得していく過程に於いて、そこに心理的発達を始め様々な要因が作用し相互に関連していく。これらを踏まえ心理面・運動面を中心に発達を学んでいく。各年齢（月齢）における発達の特徴を心理学、解剖学、生理学、運動学等の基礎科目の知識を用いて学習していく。また脳性麻痺児の姿勢・動作なども対比させ授業を進める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達学を学ぶ目的・意義・原則・関与する因子が説明できる。 2. 発達理論、心理的発達段階の特徴について理解し説明することが出来る。 3. 身体発育について、その特徴を理解し説明することが出来る。 4. 運動面の発達段階について、その個々の特徴を理解し説明することが出来る。 5. 各発達段階における脳性麻痺児の特徴を理解し説明することが出来る。 						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答えは返却しない。また、担任を通して成績を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖学、生理学（基礎）、運動学等の専門基礎科目を再復習しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	発達概念	発達に関する定義 スキヤモンの臓器別発育曲線	
2	発達理論	漸成的発達論 非漸成的発達論	
3	発達検査 ①	DENVER II - 発達判定法 その他の検査法	
4	発達検査 ②	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 障害児のための評価	
5	姿勢反射・反応	原始反射、姿勢反射・反応 (中枢レベル、出現・消失[統合]時期など)	
6	運動発達 ①	0～3カ月の運動発達	
7	運動発達 ②	4～6カ月の運動発達	
8	運動発達 ③	7～9カ月の運動発達	
9	運動発達 ④	10～12カ月の運動発達	
10	運動発達 ⑤	13～18カ月の運動発達	
11	運動発達 ⑥	6歳までの運動発達	
12	上肢機能の発達	握りとつまみ動作の発達	
13	ADLの発達	遊び・食事・排泄・更衣の発達	
14	感覚・知覚・認知・ 社会性の発達	聴覚・視覚・言語の発達	
15	学童・青年・成人・ 老年期の発達	各期の身体的変化 知能・記憶と加齢変化	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次 1年次
科目名	病理学				担当者	佐藤 友彦	
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なるほどなっとく病理学 改訂2版(南山堂)、レジュメ						
科目概要	2年次に履修する内科学で各種疾患の病態を理解するにあたり,病理学で各種疾患で出現する主要症候を学習する。内科疾患だけでなく、理学療法士が臨床で目にする多くの疾患に共通する症候を理解しリハビリ実施に役立つ知識を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要症候の発生機序を理解する。 2. 主要症候を理解しリハビリ実施時のリスク管理に役立てる。 3. 国家試験合格のための知識を修得する。 						
評価方法	後期末に筆記試験を行い、60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	各症候の講義が終了した後国家試験の過去問を解き,疾患の理解度を確認する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	症候のイメージがつかみにくい場合は動画や映像をメディアで確認することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	病理学総論	病理学を学ぶ意義	
2	病理学各論 1	炎症	
3	病理学各論 2	肥満・るいそう	
4	病理学各論 3	発熱	
5	病理学各論 4	ショック	
6	病理学各論 5	痙攣	
7	病理学各論 6	チアノーゼ、黄疸	
8	病理学各論 7	意識障害、失神	
9	病理学各論 8	発疹	
10	病理学各論 9	脱水、浮腫	
11	病理学各論 10	出血傾向	
12	病理学各論 11	高血圧	
13	病理学各論 12	胸水	
14	病理学各論 13	呼吸困難	
15	病理学各論 14	頭痛、めまい	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	2年次
科目名	神経内科学			担当者	日高 彰雄		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	病が見える 脳・神経						
科目概要	理学療法国家試験および実習では中枢神経疾患に対する深い知識が求められる。本講義では、脳血管疾患や変性疾患など神経に起因する疾患を広く学ぶことを目的とする。						
到達目標	1、中枢神経系の解剖・生理の理解 2、神経系の検査法の取得 3、神経系病変の理解 4、神経系病変に対する治療法						
評価方法	前期及び後期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答えは返却しない。また、担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については、学籍番号のみを掲示する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	本校で1年次に学んだ神経系の解剖を再復習しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	脳の解剖・生理 1	髄膜や脳室について学ぶ。	
2	脳の解剖・生理 2	中枢神経の発生と解剖を学ぶ。	
3	脳の解剖・生理 3	中枢神経系の血管を学ぶ。	
4	神経疾患の診察法 1	問診や全体的な観察から疾患の診断法を学ぶ。	
5	神経疾患の診察法 2	反射や感覚検査について学ぶ。	
6	神経疾患の診察法 3	脳神経の見方、その他の検査について学ぶ。	
7	血液凝固のメカニズム	一次止血二次止血について学ぶ。	
8	中枢疾患の画像診断 1	頭部CT画像について学ぶ。	
9	中枢疾患の画像診断 2	頭部MRI画像について学ぶ。	
10	脳血管疾患 1	脳血管疾患の分類について学ぶ。	
11	脳血管疾患 2	脳内出血について学ぶ。	
12	脳血管疾患 3	くも膜下出血について学ぶ	
13	脳血管疾患 4	脳ヘルニアについて学ぶ。	
14	脳血管疾患 5	脳虚血性疾患について学ぶ。	
15	中枢神経系の外傷	硬膜外出血や硬膜下出血、びまん性軸索損傷などについて学ぶ。	

回	単元	内容	備考
16	神経系の変性疾患 1	アルツハイマー病について学ぶ。	
17	神経系の変性疾患 2	パーキンソン病の病理について学ぶ。	
18	神経系の変性疾患 3	パーキンソン病の病態について学ぶ。	
19	神経系の変性疾患 4	パーキンソン病の治療について学ぶ。	
20	中枢神経系の脱髄疾患	多発性硬化症について学ぶ。	
21	神経筋接合部の疾患	重症筋無力症やランバートイートン症について学ぶ。	
22	筋肉の疾患 1	デュシェンヌ型ベッカー型筋ジストロフィーについて学ぶ。	
23	筋肉の疾患 2	福山型、筋強直型ジストロフィーについて学ぶ。	
24	筋肉の疾患 3	その他の筋ジストロフィーについて学ぶ。	
25	筋肉の疾患 4	多発性筋炎、皮膚筋炎について学ぶ。	
26	筋肉の疾患 5	その他のミオパチーについて学ぶ。	
27	末梢神経の疾患	シャルコーマリートゥース病などのニューロパチーについて学ぶ。	
28	発作性神経疾患	各種のてんかん発作について学ぶ。	
29	脳腫瘍	膠芽種などの脳腫瘍について学ぶ。	
30	神経系の感染症	細菌、真菌やウイルス性感染症について学ぶ。	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	整形外科学Ⅰ			担当者	大塚 智文		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	病気が見える Vol.11 運動器・整形外科						
科目概要	本講義は、身近な疾患である肩こりや腰痛をはじめとして、多種多様に存在する整形外科的疾患についての病態や症状的特徴、治療としての服薬や手術などについての知識を深め、理学療法を実施する時の礎となる基礎疾患知識を固める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科疾患の病態を正しく理解出来る。 2. 整形外科疾患の受傷機転や好発条件を正しく理解できる。 3. 整形外科疾患の症状を正しく理解出来る。 4. 整形外科疾患の治療法が正しく理解できる。 5. 整形外科疾患羅漢時の患者イメージを作ることが出来る。 						
評価方法	出席、授業態度、課題レポート、小テスト、筆記試験にて行う。						
課題に対するフィードバック	課題レポート、小テスト、筆記試験終了後に個人指導を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、運動学を復習すること ・予習、復習をしっかりとってください。 						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション	授業の概要、運動器の概観	
2	運動器の生理(1)	骨、関節の構造と分類	
3	運動器の生理(2)	筋の構造と分類、神経の生理	
4	診察の流れ	問診、検査、治療	
5	下肢の疾患（1）	下肢の概観	
6	下肢の疾患（2）	股関節の疾患	
7	下肢の疾患（3）	膝の疾患	
8	下肢の疾患（4）	足の疾患	
9	上肢の疾患（1）	上肢の概観	
10	上肢の疾患（2）	肩の疾患	
11	上肢の疾患（3）	肘の疾患	
12	上肢の疾患（4）	手の疾患	
13	グループ発表（1）	1班15分の講義を行う	
14	グループ発表（2）	1班15分の講義を行う	
15	グループ発表（3）	1班15分の講義を行う	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	2年次
科目名	整形外科学Ⅱ			担当者	大塚 智文		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	病気が見える⑪ 運動器・整形外科						
科目概要	本講義は、身近な疾患である肩こりや腰痛をはじめとして、多種多様に存在する整形外科的疾患についての病態や症状的特徴、治療としての服薬や手術などについての知識を深め、理学療法を実施する時の礎となる基礎疾患知識を固める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科疾患の病態を正しく理解出来る。 2. 整形外科疾患の受傷機転や好発条件を正しく理解できる。 3. 整形外科疾患の症状を正しく理解出来る。 4. 整形外科疾患の治療法が正しく理解できる。 5. 整形外科疾患羅漢時の患者イメージを作ることが出来る。 						
評価方法	前期・後期末に筆記試験を行う。総合点数で60点以上になった者には単位を認定する。評価基準に関しては学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖学や運動学の知識を整理しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	脊椎の疾患（1）	授業の概要、脊椎圧迫骨折、骨粗しょう症	
2	脊椎の疾患（2）	脊髄損傷、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症	
3	脊椎の疾患（3）	脊椎分離症、後縦靭帯骨化症、側弯症	
4	末梢神経損傷（1）	胸郭出口症候群、正中神経麻痺	
5	末梢神経損傷（2）	尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、下肢神経損傷	
6	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎や石灰沈着性腱板炎などの疾患の症状や病態を学習する。	
7	外傷（1）	区画症候群、上下肢骨折	
8	外傷（2）	脱臼、野球肘	
9	慢性関節疾患（1）	関節リウマチ	
10	慢性関節疾患（2）	変形性関節症	
11	グループ発表（1）		
12	グループ発表（2）		
13	グループ発表（3）		
14	グループ発表（4）		
15	グループ発表（5）		

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	精神医学			担当者	前沢病院（医師、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士）		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院						
科目概要	<p>精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について学ぶ。</p> <p>精神医学の対象である精神障害及び精神障害者に関する概念について学ぶ。</p> <p>我が国ならびに諸外国の精神医学の歴史を、関連諸科学の発展との関連で学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神現象の異常を説明できる 2 精神疾患の概念について説明できる 3 精神疾患の症状について説明できる 4 精神疾患の治療について説明できる 5 精神障害者の社会復帰・自立について説明できる 						
評価方法	前期及び後期末に筆記試験を行い、総合的に60点以上得点したものに単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	授業中に質問に対し随時フィードバックを行う。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	精神医学とは	精神医学とは、社会文化とメンタルヘルス (精神科医療の現状と課題含む)	
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状	
3	統合失調症およびその関連障害	精神症状の特徴、病型、経過と予後、治療とリハビリテーション	
4	器質性精神障害、 症状性精神障害	認知症、大脳基底核変性障害、脳の感染症、中毒、代謝および栄養障害、膠原病、内分泌障害	
5	気分障害	うつ病、躁うつ病、気分障害	
6	てんかん、神経症性障害、生理的障害 および身体的要因に関連した障害	てんかん、摂食障害、睡眠障害	
7	精神作用物質による精神及び行動の障害、パーソナリティ・行動・性の障害	アルコール関連精神障害、薬物依存、パーソナリティ障害、行動の障害、性の障害	
8	精神遅滞、心理的発達障害、コンサルテーション・リエゾン精神医学、心身医学	精神遅滞、特異的発達障害、広汎性発達障害、コンサルテーション・リエゾン精神障害とは	
9	ライフサイクルにおける精神医学	小児期・青年期の精神医学、成人期の精神医学、初老期の精神医学、老年期の精神医学	
10	面接法	精神障害の評価と診断Ⅰ（面接）	
11	心理検査	精神障害の評価と診断Ⅱ（心理検査）	
12	精神障害の治療とリハビリテーション	薬物療法、身体療法	
13	精神障害の治療とリハビリテーション	精神療法、社会的治療・リハビリテーション	
14	精神科保健医療と福祉・職業リハビリテーション	歴史、精神保健福祉法の主な内容、障害者総合支援法の主な内容	
15	精神科保健医療と福祉・職業リハビリテーション	精神科医療の現状と課題、職業リハビリテーション	

回	単元	内容	備考
16	精神症状①	精神症状の把握、意識とその障害、注意と見当識の障害、知能とその障害	
17	精神症状②	性格とその障害、記憶とその障害、感情とその障害、欲動及び意志とその障害	
18	精神症状③	自我意識とその障害、知覚とその障害、思考とその障害	
19	精神症状④	病識とその障害、主な精神状態像、神経心理学的症状、理学療法・作業療法との関連事項	
20	診断	診断・評価の方法	
21	CT、MRI、脳波	診断・評価の方法	
22	心理検査①	知能検査	
23	心理検査②	発達検査	
24	心理検査③	精神作業能力検査、神経心理学的検査	
25	統合失調症①	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴	
26	統合失調症②	病型、成因ないし病態、社会生活場面での制限	
27	統合失調症③	経過と予後、治療とリハビリテーション	
28	気分障害①	気分障害の経過及び予後、鑑別すべき精神疾患	
29	気分障害②	気分障害の理学・作業療法との関連事項	
30	後期試験		

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科				配当時間	60	対象年次 2年次
科目名	内科学			担当者	小金澤 清文 宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	内科学(標準理学療法学・作業療法学 医学書院)、レジュメ						
科目概要	理学療法士にとって内科学を学ぶ意義は、患者の病態像を把握しリハビリテーション実施におけるリスクの回避にある。また、呼吸器疾患や循環器疾患などに特化したリハビリテーションが実施される中で、より専門的な内科的知識を持つ必要性が高まっている。本講義では国家試験に必要な内科学の知識の修得し、臨床場面でも知っているべき知識を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種内科疾患の病態を理解する。 2. 各種内科疾患の治療を理解する。 3. 疾患の病態を理解しリハビリ実施におけるリスクを考えらる。 4. 国家試験に合格するための知識を整理する。 						
評価方法	前期及び後期末に筆記試験を行い、60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	各疾患の講義が終了した後、国家試験の過去問を解き、疾患の理解度を確認する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	患者の病態像がつかみにくい場合は動画や映像をメディアで確認することが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	呼吸器疾患 1	呼吸器系の構造	
2	呼吸器疾患 2	呼吸器系の機能	
3	呼吸器疾患 3	慢性閉塞性肺疾患	
4	呼吸器疾患 4	間質性肺疾患	
5	循環器疾患 1	心臓の構造と機能	
6	循環器疾患 2	血管の構造と機能	
7	循環器疾患 3	心不全	
8	循環器疾患 4	虚血性心疾患	
9	循環器疾患 5	動脈疾患	
10	消化器疾患 1	消化器の構造と機能	
11	消化器疾患 2	胃・十二指腸の疾患	
12	消化器疾患 3	大腸の疾患	
13	肝・胆・膵疾患 1	肝・胆・膵の構造と機能	
14	肝・胆・膵疾患 2	肝臓疾患	
15	肝・胆・膵疾患 3	胆・膵疾患	

回	単元	内容	備考
16	高齢者 1	総論	
17	高齢者 2	高齢者に多い疾患	
18	高齢者 3	併存疾患の管理	
19	高齢者 4	リハビリテーションに伴うリスク管理	
20	高齢者 5	高齢者に多い問題への対応	
21	代謝性疾患 1	解剖と生理	
22	代謝性疾患 2	糖尿病	
23	内分泌疾患 1	ホルモンの種類	
24	内分泌疾患 2	甲状腺疾患	
25	腎・泌尿器疾患 1	腎臓の構造、働き	
26	腎・泌尿器疾患 2	慢性腎臓病	
27	血液疾患	血液の形態と機能	
28	膠原病・アレルギー疾患 1	アレルギーと自己免疫	
29	膠原病・アレルギー疾患 2	膠原病	
30	感染症	微生物の種類と特徴	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	小児科学			担当者	齋藤 美都江		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	「標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」(医学書院)						
科目概要	<p>理学療法士国家試験における小児関連の問題は多くはない。しかし少子化の進む現在、健康な子どもたちにとっても成長を育む環境は厳しくなっている。本講義では子どもの正常な成長発達と代表的な疾患の知識の基礎を取り扱う。また理学療法士として将来障害、問題を抱える小児やそのご家族とのかかわりを深く考える機会とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な小児の成長発達を理解できる。 2. 現代の日本の子どもや小児医療が抱える問題を理解できる。 3. 小児の代表的な疾患を理解できる。 4. 療育を必要とする小児とのかかわり方を知る。 						
評価方法	<p>前期末に筆記試験を行う。また受講態度は点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上を得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点後の点数開示及び不合格者の発表は学科の規定に従う。試験に関する疑問点などへの対応は学生の希望があれば実施する。</p>						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	なし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児科学概論	成長・発育と発達①	
2	小児科学概論	成長・発育と発達②／小児の保健	
3	小児科学概論	不慮の事故と予防法	
4	診断と治療の概要	診断、検査、治療法	
5	診断と治療の概要	小児の救急蘇生法	
6	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	新生児・未熟児疾患	
7	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	感染症	
8	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	免疫・アレルギー疾患、膠原病	
9	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	血液・内分泌・神経・筋・骨系疾患	
10	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	消化器・腎泌尿器・生殖器疾患	
11	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	循環器・呼吸器疾患	
12	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	児童虐待①	
13	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	児童虐待②	
14	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	先天異常・遺伝病・障がい児	
15	小児の疾患 (患児・家族との接し方)	腫瘍性疾患、子どもの死	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習	
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次	3年次
科目名	医療関連論				担当者	各分野の非常勤講師		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	教科書・資料・プロジェクターなど							
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オムニバス形式により、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防の基礎を学習する。 ・授業は、それぞれ各専門の非常勤講師が行う。 							
到達目標	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養うとともに、高度化する医療ニーズに対応するため栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防の基礎を学ぶ。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・規定の出席日数を満たす。 ・各授業において、それぞれ試験を行い6割以上の得点を合格とする。 							
課題に対するフィードバック	試験結果を公表し、合格点に満たない学生に関しては、再試験を行う。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)								

授業計画

回	単元	内容	備考
1	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
2	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
3	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
4	臨床薬学	薬物の基本的事項	
5	臨床薬学	対象疾患に対する薬物療法 薬物の副作用	
6	臨床薬学	対象疾患に対する薬物療法 薬物の副作用	
7	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
8	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
9	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
10	救急救命医学	救急医学の基礎	
11	救急救命医学	救急医学の基礎	
12	救急救命医学	救急法演習	
13	予防の基礎	予防の基礎・重要性	
14	予防の基礎	健康管理	
15	試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	臨床心理学			担当者	林 洋子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	臨床心理学のすべてがわかる本（ナツメ社） 教員作成資料他						
科目概要	講義及び心理療法・心理テストの実践を行う						
到達目標	1, 臨床心理学理論や技法について学び、医療の臨床場面での患者理解に役立てることができる 2, 自分自身や他者への理解を深めることができる						
評価方法	・ 期末試験の結果 60点以上を合格とする ・ 授業出席数を満たす						
課題に対するフィードバック	1, 前期末に試験を行い、その結果を公表する。 2, 合格点に満たない学生には、再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床心理学とは	臨床心理学とは	
2	臨床心理学とは	歴史	
3	臨床心理学とは	基礎	
4	心の動き	葛藤・防衛機制・ストレス	
5	心の動き	学習理論・記憶・思考	
6	心の発達	心の発達	
7	心理アセスメント		
8	心理検査	概要	
9	心理検査	実践	
10	精神疾患	精神疾患	
11	心理療法	薬物療法	
12	心理療法	実践	
13	メンタルヘルス	青年期のメンタルヘルス	
14	試験	試験対策と講義のまとめ	
15	試験		

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	リハビリテーション概論		担当者	吉田 敏哉			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト「リハビリテーションビジュアルブック」・プリント配布						
科目概要	<p>代表的な疾患や障害像を通してリハビリテーションを行う上での基礎知識や技術、最新のアプローチ等について学ぶ。</p> <p>また、理学療法士として患者にどのように関わるかチーム医療とはどのようなものを意味するのかなど幅広いものの考え方について学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療、リハビリテーションの目的、疾患別の障害像を理解する 2. 各病期ごとのリハビリテーションについて理解する 3. 疾患について理解する 4. 疾患ごとのリハビリテーションについて理解する 5. 患者に対する精神的・肉体的かかわりかたを理解する 6. 理学療法士が関わることについて考えを深める 						
評価方法	<p>期末試験を行う。（筆記および選択問題）</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験採点后個人に対しフィードバックを行う。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>入学前の通信教育で人体についての概要を理解しておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	リハビリテーションの理解	チーム医療、目標、障害像について	
2	病期別リハビリテーション	急性期・回復期・生活期リハについて	
3	疾患についての理解①	脳出血の病態とリハビリ	
4	疾患についての理解②	脳梗塞の病態とリハビリ	
5	疾患についての理解③	クモ膜下出血の病態とリハビリ	
6	脳血管障害像	脳血管障害患者への関わり	
7	疾患についての理解④	脊髄小脳変性症の病態とリハビリ	
8	疾患についての理解⑤	多発性硬化症の病態とリハビリ	
9	疾患についての理解⑥	ギランバレー症候群の病態とリハビリ	
10	中枢・末梢神経障害	神経システムごとの特徴	
11	疾患についての理解⑦	各種骨折に対するリハビリ	
12	疾患についての理解⑧	変形性関節症に対するリハビリ	
13	疾患についての理解⑨	代表的な整形外科疾患	
14	終末期リハビリ	緩和ケアにおけるPTの役割	
15	社会資源の活用	生活環境や医療福祉制度の活用	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	社会保険の知識				担当者	小野 浩		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	地域理学療法学 第3版(医歯薬出版株式会社),世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ(ソシム株式会社),教員作成資料他							
科目概要	地域包括ケアシステムの推進に伴い、社会における理学療法の役割は大きくなっている。このような時代背景から社会保険制度をはじめとする制度を理解した上で理学療法を実施する事は非常に大切である。本講義では理学療法と関連が深い介護保険制度を中心に学習し、地域や社会に求められる理学療法について理解を深める。							
到達目標	<p>①理学療法と関連がある法制度について説明できる。</p> <p>②介護保険制度の概要について説明できる。</p> <p>③介護保険制度における理学療法の役割について説明できる。</p> <p>④地域包括ケアシステムについて概説できる。</p>							
評価方法	授業態度や出席状況10点、課題発表10点、筆記試験80点の3項目合計で成績判定し、60点以上を合格とする。							
課題に対するフィードバック	小テスト採点後に解説を行う。期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする。							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	使用教科書を事前に読み予習を行うのが望ましい。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	社会保険制度の概要を学習する	
2	地域包括ケアシステム①	地域包括ケアシステムについて概要を理解する	
3	地域包括ケアシステム②	地域包括ケアシステムの推進に伴う理学療法のあり方について学習する	
4	介護保険制度	介護保険の概要を理解する	
5	障害者福祉における地域理学療法	障害者総合支援法のポイントを理解し、支援方法について学習する	
6	地域における社会資源	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの分類ができる	
7	介護保険下での地域理学療法①	介護保険制度の理解を深める	
8	介護保険下での地域理学療法②	介護保険下での地域理学療法の展開について学習する	
9	施設と在宅生活でのリハビリテーション	施設サービスと居宅サービスの理解を深める	
10	地域環境	地域環境についての理解	
11	公共交通	公共交通について学び、ユニバーサルデザインの実際についての理解	
12	高齢者の在宅支援について	時代背景を踏まえた在宅支援の重要性についての理解	
13	高齢者の在宅支援サービス	理学療法士が関わる在宅支援サービスの実際	
14	福祉用具の選定	福祉用具の理解を深め、適切な介入を学ぶ	
15	後期期末テスト	後期行った範囲内での期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	理学療法概論Ⅰ		担当者	大塚 智文、大谷 知浩			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	PTスタートガイド 基礎理学療法概論（メディカルビュー社）						
科目概要	理学療法士の意義、役割を確認し、職務内容について概観していくと同時に、理学療法に対する理解を深めていく。今後4年間に行う学習内容について概略を話すとともに、自己学習能力を高めていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.理学療法士の意義、役割を確認し、職務内容の概略を理解する。 2.今後4年間に行う学習内容を理解するとともに自己学習能力を高める。 3.理学療法における治療理論の概要を理解できる 						
評価方法	出席、授業態度、授業貢献度、課題レポート、小テスト、筆記試験にて行う。						
課題に対するフィードバック	課題レポート、小テスト、筆記試験終了後に個人指導を行う。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	・テキストの予習、復習をしっかりとって授業に臨むこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション（1）	授業の概要、理学療法士の仕事、法規	
2	イントロダクション（2）	コミュニケーション	
3	理学療法の対象の理解（1）	脳卒中片麻痺	
4	理学療法の対象の理解（2）	神経・筋疾患	
5	理学療法の対象の理解（3）	脳性麻痺	
6	理学療法の対象の理解（4）	変形性股関節症	
7	理学療法の対象の理解（5）	脊髄損傷	
8	理学療法の対象の理解（6）	循環器・呼吸器疾患	
9	理学療法の対象の理解（7）	糖尿病・老年症候群	
10	理学療法の方法（1）	筋力	
11	理学療法の方法（2）	関節可動域	
12	理学療法の方法（3）	バランス	
13	理学療法の方法（4）	感覚、疼痛	
14	理学療法の方法（5）	義肢装具、ADL	
15	臨床実習	クリニカルクラークシップ	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義・演習	
学科名	理学療法学科				配当時間	105	対象年次	3年次
科目名	理学療法概論II				担当者	学科教員全員で分担		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	PT/OTのための臨床技能とOSCE（第2版）、各教員作成資料							
科目概要	本講義は、臨床実習や卒後の臨床活動において、最重要な項目の一つであると思われる、評価技術・接遇対応・臨床推論・治療技術を一連の流れで捉えられるように、一人の患者様への応対技術を学内で学習・体験させていく。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各評価を正しく実施することが出来る。 2. 患者様への説明を含めた接遇面での配慮が、円滑丁寧に行える。 3. 評価した結果から、患者様の全体像を作り上げることが出来る。 4. 問題点の抽出やプログラムの立案を、適切に行うことが出来る。 5. プログラムの実施を適切に行える。 							
評価方法	前期・後期末に筆記・実技試験を行い総合的に判断する。総合点数で60点以上になった者には単位を認定する。評価基準に関しては学科の規定による。							
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	評価能力・臨床推論能力・考察能力が必要となる為、1年・2年で行った評価法を中心に復習しておく。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	バイタルチェック	すべての医療行為に先立って施行される、心拍数、呼吸数、血圧測定の実際を学ぶ	
2	感覚テスト、反射テスト	表在感覚、深部感覚、深部腱反射、病的反射の検査法の実際を学ぶ	
3	悪性腫瘍のリハビリテーション	悪性腫瘍の患者のカルテの見方、運動療法の施行法について学ぶ	
4	精神医学	三大精神病を中心に、知識を深める	
5	心理学	様々な心理テストやパーソナリティ障害の対応等、心理学の知識を学ぶ	
6	筋力測定	臨床場面での測定手順や方法について学ぶ	
7	ADL評価	評価バッテリーはFIMを用いて実際の評価方法について学ぶ	
8	起居・立ち上がり分析	動作のメカニズムとともに動作観察から分析までの流れを学ぶ	
9	移乗訓練	各疾患における以上のパターンを複数理解し、正しく提供できるようにする	
10	拘縮改善訓練	関節可動域制限の原因から、その改善方法を導き出し、正しく提供できるようにする	
11	起居・立ち上がり介助	動作メカニズムを考慮した片麻痺患者に対する動作介助について学ぶ	
12	ADL介助（トイレ,更衣）	片麻痺患者に対する動作中の重心移動に視点を置いた動作介助について学ぶ	
13	スタンダードプレコーション	感染予防対策の重要性を理解し、実践できるようになる	
14	筋緊張、疼痛	筋緊張と疼痛の評価について、結果の解釈まで簡単にできるように模擬症例を例に学ぶ	
15	在宅医療	在宅医療に必要な知識をエピソードを交え、リスク管理を中心に学ぶ	

回	単元	内容	備考
16	姿勢、歩行分析	姿勢観察をする際のポイントを学び、異常歩行の特徴を理解する	
17	脳神経	脳神経の解剖と生理、実際の疾患とその検査方法を学ぶ	
18	高次機能障害	高次機能の理解と障害に対する検査、治療法を学ぶ。	
19	中枢の知識 1	中枢神経疾患の画像の診断について学ぶ	
20	中枢の知識 2	中枢神経疾患それぞれの特徴とその治療法について学ぶ	
21	中枢の知識 3	中枢神経疾患の評価法や各種検査法について学ぶ	
22	呼吸器の知識	呼吸器の知識とフィジカルアセスメントの流れについて学ぶ	
23	呼吸の知識 2 (画像)	シルエットサインを中心に学び、アセスメントに繋がられるように理解する	
24	筋力訓練	筋力訓練のメカニズムを理解し、正しく提供できるようにする	
25	心臓リハビリテーション	心疾患の病態とリハビリ実施に際しての知識を修得する	
26	代謝障害のリハビリテーション	代謝障害(糖尿病)のリハビリ実施に際しての知識を修得する	
27	解剖・生理学 1 運動器の知識	動作分析・観察に必要な運動器の解剖学の知識を修得する	
28	解剖・生理学2 反射検査の知識	伸張反射の仕組みと検査を行う意味を理解する	
29	整形外科的テスト	整形疾患の負荷試験のメカニズムを知り、正しく実施できるようにする	
30	関節可動域測定	関節可動域制限を作る要因について学習し、正しく測定できるようにする	

回	単元	内容	備考
31	四肢長周径測定	四肢長周径を正しく測定し、そこから分かるものが何なのかを推測できるようにする	
32	整形外科疾患の知識 1	代表的な整形外科的疾患の病態と症状を理解する	
33	整形外科疾患の知識 2	代表的な整形外科的疾患の画像から疾患を推測し症状と予後を予測する	
34	整形外科疾患の知識 3	各疾患のプロトコルを説明し、回復過程を理解する	
35	整形外科疾患の知識 4	回復過程に沿った形で治療が提供できるように、適切な技術を習得する	
36	検査データの活用法	検査データの意味を理解・解釈し、安全にリハビリを実施する為の知識を修得する。	
37	問題点の挙げ方(ICF,ICIDH)	データ結果からの問題点の導き方,ICF,ICIDH分類方法について学ぶ	
38	ゴール設定について	問題点とゴール設定,プログラムのつながりや予後予測を含めたゴール設定について学ぶ	
39	統合と解釈の方法 1	各評価項目から考えられるアセスメントを導き出すことが出来る	
40	統合と解釈の方法 2	各評価項目から考えられるアセスメントを導き出すことが出来る	
41	統合と解釈の方法 3	各評価アセスメント同士を結び付けることが出来る	
42	統合と解釈の方法 4	各評価アセスメント同士を結び付けることが出来る	
43	統合と解釈の方法 5	アセスメントの結び付けを説明することが出来る	
44	統合と解釈の方法 6	アセスメントの結び付けを説明することが出来る	
45	統合と解釈の方法 7	患者様の全体像を作り上げることが出来る	

回	単元	内容	備考
46	プログラムの立案 1	運動器疾患のプログラムが立案できるようになる	
47	プログラムの実施 1	運動器疾患のプログラムが実施できるようになる	
48	プログラムの立案 2	中枢系疾患のプログラムが立案できるようになる	
49	プログラムの実施 2	中枢系疾患のプログラムが実施できるようになる	
50	コミュニケーション論 1	患者様やご家族様、その他医療職員との会話の意味や方法について学ぶ	
51	コミュニケーション論 2	実際に他者（患者様役を設ける）との医療コミュニケーションを行う	
52	コーチング	メディカルコーチングを学び、患者様の意欲向上スキルを学習する	
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次 1年次
科目名	臨床コミュニケーション技術				担当者	徳永 義隆	
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	会話とワーク手で学ぶ臨床コミュニケーション論 三宅わか子他著						
科目概要	医療人として必要なコミュニケーション能力を養うとともに、臨床で対応する様々な事例に対する対処法を学ぶ。						
到達目標	1 傾聴と共感というコミュニケーションの基本を身につける。 2 状況や相手の状況に応じて適切なコミュニケーションを行える。 3 仕事の遂行に必要な情報を得ることができる。 4 自分の考えを的確に相手に伝えることができる。						
評価方法	各授業ごとの提出課題と期末に行う小論文のテストを総合して判定する。						
課題に対するフィードバック	各授業ごとの提出課題を返却し、解説を行いより理解を深める。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	デール カーネギー著「人を動かす」を事前に読んでおくこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	なぜコミュニケーションを学ぶのか	医療職としてコミュニケーション能力の必要性について学ぶ	
2	社会で働くために必要な力とは	社会人としての基礎的な力について学ぶ	
3	伝える・伝わるコミュニケーションとは	人に伝えるために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ	
4	コミュニケーションのタイプ	世代間によるコミュニケーションの取り方の違いについて学ぶ	
5	コミュニケーションのタイプにおける解決と解消	解決型と解消型のコミュニケーションの違いについて学ぶ	
6	学校におけるコミュニケーション	学生時代に身に付けたいコミュニケーションの基本について学ぶ	
7	実習で求められるコミュニケーション	目上の人や患者に対するコミュニケーションの取り方わ学ぶ	
8	入職までに身に付けたいコミュニケーション	就職活動に対応する為に必要なコミュニケーション能力について学ぶ	
9	人を育てるコミュニケーション	新人教育における必要なコミュニケーション能力を学ぶ	
10	職場でのコミュニケーション	城し先輩、同僚との仕事を進めていく上での円滑なコミュニケーション法を学ぶ	
11	臨床現場でのコミュニケーション	臨床現場でのプロセスレコードについて学ぶ	
12	医療安全のためのコミュニケーション	医療場面における状況の伝え方、支持の受け方について学ぶ	
13	クレーム対応のコミュニケーション	ケーススタディをもとにクレームに対する基本的な対応を学ぶ	
14	ミーティングのためのコミュニケーション	カンファレンスの際必要な結論を先に話す話し方や相手の意見を尊重する話し方を学ぶ	
15	メンタルヘルスとコミュニケーション	人間関係を意識したコミュニケーションの取り方やその相手や自分に与える影響を学ぶ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	臨床運動学				担当者	新井 清代		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	動作分析 臨床活用講座 メディカルビュー、教員用意配布物							
科目概要	理学療法士の国家試験で出題頻度の高い歩行や起立動作に対応する知識を身につける。また臨床実習で必須である動作分析の理論や方法について人が動くためのメカニズムをもとに異常動作のメカニズムと分析を行うための知識を身につける。							
到達目標	①臨床における動作分析の重要性や方法について理解する ②姿勢制御のバイオメカニクスについて理解する ③寝返り動作分析のメカニズムと評価方法を理解する ④起き上がり動作メカニズムと評価方法を理解する ⑤起立・着座動作メカニズムと評価方法を理解する ⑥歩行のメカニズムについて理解する ⑦異常歩行について特徴を理解する							
評価方法	授業態度（出席状況）5点,小テスト10点,確認試験85点満点にて3つの合計で採点（60点以上を合格とする）							
課題に対するフィードバック	小テスト採点后答案を返却し解説を行う.期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	1年次に行った運動学,とくに生体力学的な身体重心の制御や支持基底面と重心の関係,加速度の理解ができるようにしておくことが望ましい。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	動作観察と分析	臨床における動作観察と分析の重要性について	
2	寝返り動作と起き上がり 動作観察	動作観察方法について	
3	寝返り動作と起き上がり 動作メカニズム	動作のメカニズムについて	
4	寝返り動作と起き上がり 動作分析	動作分析について	
5	起立・着座動作メカニズム	動作のメカニズムについて	
6	起立・着座動作分析	動作分析について	
7	姿勢制御・バランス能力 評価	姿勢制御、バランス評価とは何か？	
8	歩行メカニズム	歩行周期、ロッカー機能	
9	歩行メカニズム	歩行時の重心、関節運動、筋活動について	
10	歩行分析	歩行分析の方法	
11	脳血管患者の異常歩行	異常歩行の特徴について	
12	期末試験テスト前勉強	ノートまとめ、テスト範囲の教員への質問	
13	骨関節疾患の異常歩行	異常歩行の特徴について	
14	パーキンソン患者の異常 歩行	異常歩行の特徴について	
15	期末試験	試験範囲内の国家試験問題,授業内より出題	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習	
学科名	理学療法学科				配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	理学療法管理学				担当者	吉田 敏哉		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	教員作成の資料							
科目概要	理学療法の職業教育の一環として理学療法のプロフェッショナリズムについて学習する。現状で働いている理学療法士のフィールドについて学び、それぞれの分野で活躍する理学療法士の仕事を理解することで、役割ややりがい、必要なスキルなど、今後労働時に考慮すべき点を明確にし、これからの理学療法士教育の一翼とする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.理学療法士の仕事内容・役割を理解できる 2.理学療法士の多様性について理解できる 3.理学療法士におけるプロフェッショナリズムについて説明できる 4.今後の社会において必要とされる理学療法士像について説明できる 							
評価方法	前期末に筆記試験を行う。また、日常的学習態度や素行等を加味し、筆記試験と総合的に判断する。総合点数で60点以上になった者には単位を認定する。評価基準に関しては学科の規定による。							
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	理学療法概論、地域理学療法学など、医療保険とともに介護保険の知識や社会制度について、学んだところをもう一度整理しておく。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	管理学	理想の職場とは	
2	管理学	人間管理（コーチング・メンタリング）	
3	労務管理	職場の労働条件について	
4	労務管理	ハラスメント・個人職能管理	
5	運営管理	法人目標と個人目標の管理	
6	運営管理	日常業務管理（物品管理など）	
7	安全管理	個人情報保護について	
8	安全管理	安全管理・感染対策について	
9	教育管理	診療報酬（医療保険・介護保険）	
10	教育管理	卒後教育について	
11	職場環境管理	ハード面の整備	
12	様々な職域	病院医療（一般・回復期・療養・地域包括）	
13	様々な職域	在宅医療分野	
14	様々な職域	スポーツ分野	
15	様々な職域	教育・一般企業分野	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	1年次
科目名	評価学Ⅰ			担当者	吉田 敏哉 徳永 義隆		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト「理学療法評価学」およびプリント配布						
科目概要	<p>評価学では理学療法士が患者に対して行う各種評価について、その評価内容や評価技術を学ぶ。この科目では種々の評価の中から前期で「形態測定」後期で「関節可動域測定」についてその目的、測定の仕方、測定結果の記録の仕方さらに考察まで幅広く学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.形態測定の意義と目的を理解し説明できる 2.形態測定、関節可動域測定の種類を言える 3.形態測定、関節可動域測定上の注意事項を言える 4.身長・体重、各関節の可動域を測定できる 5.四肢長・肢節長および周径の測定ができる 6.形態の異常について理解し考察できる 						
評価方法	前期後期それぞれ中間試験および期末試験を行い、総合的に平均60点以上を合格とし単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験採点后個人に対しフィードバックする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	入学前の通信教育で人体についての概要を理解しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	形態測定の意義と目的	形態測定の目的および内容についての説明	
2	形態測定の種類	5種類の測定項目について説明	
3	形態測定上の注意事項	注意事項6項目について説明	
4	身長・体重の測定	身長計・体重計などを用いた測定法	
5	栄養状態と体格指数	8種類の体格指数について学ぶ	
6	四肢長および肢節長①	上肢長・上肢実用長・上腕長・前腕長測定	
7	四肢長および肢節長②	手長・下肢長・下肢実用長・大腿長・下腿長	
8	四肢長および肢節長③	足長・指極・切断端長	
9	周径測定の意義と目的	周径測定についての基礎知識	
10	周径①	上腕周径・前腕周径・大腿周径・下腿周径	
11	周径②	指の太さ、特殊な測定法	
12	周径③	頭囲・胸囲・腹囲・殿囲	
13	切断端周径①	上腕切断・前腕切断端周径	
14	切断端周径②	大腿切断・下腿切断	
15	肢長・周径からの考察	各測定結果から異常について考察する	

回	単元	内容	備考
16	関節可動域測定の意義目的	関節可動域測定の意義・目的の説明	
17	関節可動域制限	可動域が低下する原因について解説	
18	基本的肢位と運動方向	測定時の肢位および関節運動方向	
19	関節可動域表示	測定値の表示法・記載法の説明	
20	測定器具	ゴニオメーター他測定器具の説明・使用法	
21	測定上の注意と正常可動域	角度計の当て方、正常可動域の説明	
22	測定の実際①	肩関節屈・伸、内・外旋、内・外転	
23	測定の実際②	肩関節水平屈・伸、肘関節屈・伸、回内外	
24	測定の実際③	手関節掌・背屈、橈・尺屈、手指関節	
25	測定の実際④	母指屈・伸、内・外転、対立	
26	測定の実際⑤	手指屈伸、内外転、三関節角度計の使用法	
27	測定の実際⑥	股関節屈伸、内外旋、内外転、膝屈伸	
28	測定の実際⑦	足部屈伸、内・外返し、内外転、足趾	
29	測定の実際⑧	頸部・体幹の全運動方向	
30	臨床応用	可動域制限と変形について説明	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科				配当時間	60	対象年次 1年次
科目名	評価学Ⅱ			担当者	新井 清代		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	津山直一（訳）：「新・徒手筋力検査法 10 版」． 協同医書出版． 2020						
科目概要	理学療法における筋力測定から評価の流れについて理解し，理学療法評価に必要な基本的な筋力測定方法の意義や手技を学び習得する。						
到達目標	①評価と筋力測定の意義につて理解する ②下肢、顔面の筋力測定を行うことができる ③筋力測定と疾患とのつながりを理解し模擬症例から異常動作を予測できる ④機器による筋力測定の意義,方法について理解する ⑤上肢、頸部、体幹筋の筋力測定を行うことができる ⑥国家試験に出る筋力測定の出題傾向を理解する						
評価方法	前期；授業態度（出席状況）5点,レポート提出10点,確認実技試験85点満点の合計3つで採点し60点以上を合格とする 後期；授業態度（出席状況）5点,筆記試験35点,実技試験60点満点の合計3つで採点し60点以上を合格とする						
課題に対するフィードバック	期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする.再試験受験者に対しては補講を行った後再度実技試験を行う.						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖学で学習した筋肉の起始,停止や支配神経を復習しておくとともに発表する班は測定する筋に関連する疾患を参考書で事前に予習する.						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	評価と筋力測定の意義	評価と筋力測定の意義,今後の授業発表のデモンストレーション	
2	股関節屈曲,屈曲・外転・外旋,伸展の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
3	股関節外転,股関節屈曲位からの外転の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
4	股関節内転,外旋の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
5	股関節内旋,膝関節屈曲の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
6	膝関節伸展,足関節底屈の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
7	足関節背屈並びに内がえし,内がえしの筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
8	足関節底屈外がえしの筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
9	機器による筋力測定	等速運動測定機器と手持ち筋力計を用いた筋力測定方法とデータの解釈	
10	下肢の筋力測定復習	今まで行った下肢筋力測定の復習	
11	顔面の筋力測定	脳神経検査のうち運動系の範囲である表情筋の筋力測定	
12	症例検討	模擬症例から考えられる異常歩行を考察	
13	実技練習	期末実技試験に備え練習	
14	実技試験	1～4コマかけ教員と全員が実技試験を行う	
15	実技試験	1～4コマかけ教員と全員が実技試験を行う	

回	単元	内容	備考
16	下肢筋力測定復習	1年次学習した下肢筋力テスト総復習を行う	
17	肩甲骨外転上方回旋,挙上,内転の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
18	肩甲骨下制と内転,内転と下方回旋,下制の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
19	肩関節屈曲,伸展,外転の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
20	肩関節水平外転,水平内転,外旋,内旋の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
21	肘関節屈曲,伸展,前腕回内,回外の筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
22	手関節屈曲,伸展の筋力測定と上肢筋力測定復習	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
23	手指筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と測定方法を習得する	
24	頸部筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
25	体幹筋力測定	筋肉の起始,停止の復習と関連する疾患と該当する筋肉との関係を理解し測定方法を習得する	
26	実技総復習	下肢筋力測定を含めた範囲での実技総復習	
27	筆記問題解説	国家試験筋力測定で出題範囲の解説	
28	実技試験練習	期末実技試験練習	
29	筆記試験	事前配布した国試問題内容から出題する筆記試験を行う	
30	実技試験練習	期末実技試験練習	

回	単元	内容	備考
31	期末実技試験	1～4コマかけ教員と全員が実技試験を行う	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	90	対象年次	2年次
科目名	評価学Ⅲ			担当者	徳永 義隆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	理学療法評価学 改訂第6版 金原出版、教員が作成した資料						
科目概要	患者の評価の基礎となる、バイタルチェック、種々の感覚検査、画像診断、筋緊張、整形外科のスペシャルテストの意味と理論、実施方法について学び、研鑽する。						
到達目標	患者のランドマークの触診ができる。バイタルチェックが出来、訓練してよいか悪いかの判断が出来る。腱反射検査、病的反射検査の意味と実施及び結果の解析が出来る。感覚検査の意義と実施及び結果の判定が出来る。各種整形外科テストの意義と実施及び結果の判定が出来る。						
評価方法	各單元ごとの小テスト、および期末の実技テスト、ペーパーテストの成績を総合して判定する。						
課題に対するフィードバック	各單元ごとの小テストの返却及び解説、期末の実技テスト実施後のフィードバックを通して、技術を伝えてゆく。						
履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)	解剖・生理学の復讐及び整形外科の授業で扱う様々な疾患の知識をよく学習すること						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	触診法・上半身	上半身のランドマークを中心に、1年生で学習した内容を踏まえ、触診法の学習を行う。	
2	触診法・下肢	下半身のランドマークを中心に、1年生で学習した内容を踏まえ、触診法の実習を行う。	
3	脈拍、呼吸数の見方	バイタルチェックの基本である、呼吸数脈拍の見方を学ぶ。	
4	血圧測定	バイタルチェックの基本である、血圧測定の理論と方法を学ぶ。	
5	関節可動域訓練の実際 1	上肢及び手指の関節可動域訓練の実施法、注意点を学ぶ。	
6	関節可動域訓練の実際 2	下肢の関節可動域訓練の実施法、注意点を学ぶ。	
7	触覚及び足底感覚検査	触覚および足底感覚検査の実施法と注意点を学ぶ。	
8	痛覚検査の実際	痛覚検査の実施法と注意点を学ぶ。	
9	深部感覚検査の実際	位置覚、運動覚検査の実施法と注意点を学ぶ。	
10	複合感覚検査の実際	皮膚書字試験、二転識別覚、立体感覚などの実施法と注意点を学ぶ。	
11	深部腱反射の実際	深部腱反射の意義、実施法と注意点について学ぶ。	
12	病的反射の実際	病的反射の意義、実施法と注意点について学ぶ。	
13	表座位反射の実際	表在反射の意義、実施法と注意点について学ぶ。	
14	評価実習での注意点	様々な事例を元に評価実習での注意点をシミュレーションする。	
15	総合実技	学習した検査法を一通り通しで行い、あいまいな点を改善する。	

回	単元	内容	備考
16	頸部の整形外科テスト	頸部の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
17	胸郭出口症候群の整形外科テスト	胸郭出口症候群の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
18	肩関節の整形外科テスト1	肩関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
19	肩関節の整形外科テスト2	肩関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
20	肘関節の整形外科テスト	肘関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
21	手関節、手指の整形外科テスト	手関節、手指の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
22	胸椎・胸郭の整形外科テスト	胸椎、胸郭の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
23	上半身のテストまとめ	現在まで学んだ整形外科テストの総復習を行う。	
24	腰椎の整形外科テスト	腰椎の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
25	仙腸関節の整形外科テスト	仙腸関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
26	股関節の整形外科テスト	股関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
27	膝関節の整形外科テスト1	膝関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
28	膝関節の整形外科テスト2	膝関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
29	足関節の整形外科テスト	足関節の整形外科テストの理論と実施方法の実際を学ぶ。	
30	下半身のテストまとめ	学んだテストの再確認を行う。	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	2
科目名	評価学IV			担当者	横山 雅人		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	①リハビリテーション基礎評価学第2版／②実践！理学療法評価学, 医歯薬出版／ ③病気が見える 脳と神経 第2版, メディックメディア／ ④脳卒中の機能評価SIASとFIM, 金原出版／⑤臨床運動学, 中山書店／⑥臨床動作分析, メジカルビュー						
科目概要	神経障害の必要な基礎知識（基本病態・機能局在・脳血流灌流・伝導路）を理解した上で、基礎的評価（検査・測定）となる、片麻痺機能検査、筋緊張検査、協調性検査、脳神経検査、バランス検査の理論と実施方法について学ぶ。また、神経障害における姿勢や動作の特徴を理解し、その観察・分析方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害の基本病態、脳の機能局在、血流灌流、伝導路が理解できる。 2. 神経障害の基本的検査・測定が実施できる。 3. 脳卒中患者の姿勢や動作が理解できる。 4. 神経障害における一連の理学療法過程が理解できる。 5. 神経障害における統合と解釈について理解できる。 						
評価方法	<p>実技テスト・小テスト・課題、ポートフォリオ、前期及び後期末の試験から総合的に判断する。また、受講態度・参加・貢献なども考慮する。下記の割合で総合的に6割以上の者に単位を認定する。再試験の対象者は期末テストを含め、下記の割合で算出され結果において6割未満の者とする。</p> <p>【期末テスト40%、実技・小テスト・課題30%、ポートフォリオ20%、授業参加・貢献10%】</p>						
課題に対するフィードバック	<p>科目評価結果、試験得点については希望者に知らせる（問題・答案は基本的に非公開）。</p> <p>不合格者については、学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>授業の受講条件：下記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経障害に関する解剖学や生理学などを再学習しておくことを望む。 ・実技の際は運動できる格好で授業の望むこと（ジャージ）。 ・教員の提示するルールを守り、指示に従うこと。 <p>※授業進度によって授業計画が変更する場合、補講を実施する</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	科目オリエンテーション神経の機能と構造	ポートフォリオの説明 脳の機能、運動に関わる脳の機能局在を理解	主な教材 ③
2	神経の機能と構造	脳の連絡線維・断面図 ウィルス動脈輪・運動発現モデル	主な教材 ③
3	神経の機能と構造	脳血流灌流分布と機能局在 運動・感覚の伝導路を理解する	主な教材 ③
4	神経の機能と構造	脳血流灌流分布と機能局在 運動・感覚の伝導路を理解する	主な教材 ③
5	神経の機能と構造	まとめ・小テスト 神経障害を評価するために必要な神経の機能	主な教材 ③
6	片麻痺機能検査	・片麻痺機能評価の基礎知識 ・中枢と末梢神経障害の回復過程の違い	主な教材 ③
7	片麻痺機能検査	・Brunnstrom Stageの各検査方法 上肢・手指・下肢	主な教材 ①③
8	片麻痺機能検査	・Brunnstrom Stageの各検査方法 上肢・手指・下肢	主な教材 ①③
9	片麻痺機能検査	・Brunnstrom Stageの各検査方法 　まとめ 上田の12段階グレードとの関連について	主な教材 ①③
10	筋緊張検査	・筋緊張について ・異常筋緊張の発生機序	主な教材 ①③
11	筋緊張検査	・被動性検査の方法を学ぶ ・Modified Ashworth Scale (MAS)	主な教材 ①③
12	筋緊張検査	・被動性検査の方法を学ぶ ・Modified Ashworth Scale (MAS)	主な教材 ①③
13	片麻痺機能検査 筋緊張検査	・検査の実際：ケーススタディ／小テスト	主な教材 ①③
14	脳神経検査	・脳神経検査に必要な知識を理解し、検査測定方法を学ぶ	主な教材 ①③
15	脳神経検査	・脳神経検査に必要な知識を理解し、検査測定方法を学ぶ	主な教材 ①③

回	単元	内容	備考
16	協調性検査	・ 協調運動障害・運動失調の定義の違い	主な教材 ①
17	協調性検査	・ 具体的協調性検査の方法 ・ 躯幹協調機能ステージ	主な教材 ①
18	高次脳機能検査	・ 高次脳機能障害の特徴と原因病巣 ・ 高次脳機能障害検査の実施	主な教材 ①
19	高次脳機能検査	・ 高次脳機能障害の特徴と原因病巣 ・ HDS-R・MMSE／注意障害／USN／プッ	主な教材 ①
20	高次脳機能検査	・ 高次脳機能障害の特徴と原因病巣 ・ HDS-R・MMSE／注意障害／USN／プッ	主な教材 ①
21	バランス検査	・ 姿勢調節とバランス／バランスの理論的背景	主な教材 ①
22	バランス検査	・ 座位位バランス検査方法を学ぶ (静的・動的・外乱負荷応答)	主な教材 ①
23	バランス検査	・ 立位バランス検査方法を学ぶ (静的・動的・外乱負荷応答)	主な教材 ①
24	バランス検査	・ バランスのパフォーマンステストを学ぶ ・ BBS、FR、TUG、BesTest、10MWS	主な教材 ①
25	バランス検査	・ 検査の実際：ケーススタディ／小テスト	
26	中枢神経障害患者の姿勢と動作	・ オリエンテーション ・ 姿勢・動作の特徴	主な教材 ②⑤⑥
27	中枢神経障害患者の姿勢と動作	・ 動作観察の手順／寝返り	主な教材 ②⑤⑥
28	中枢神経障害患者の姿勢と動作	・ 模倣テスト／起き上がり	主な教材 ②⑤⑥
29	中枢神経障害患者の姿勢と動作	・ 歩行／立ち上がり	主な教材 ②⑤⑥
30	中枢神経障害患者の姿勢と動作	・ 検査の実際：ケーススタディ／小テスト	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	120	対象年次	2年次
科目名	運動療法Ⅰ			担当者	宮澤 満 日高 彰雄 小野 浩		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト「運動療法学」・プリント配布						
科目概要	<p>実際の運動療法の理論的背景と、どのように人間は運動を学習していくのかを様々な理論を背景に学ぶ。</p> <p>またそれらの理論を支える中枢神経系の解剖・生理学を学ぶ。</p> <p>運動器系の生理や解剖、学習理論などの基礎的原理と各種基本的な治療方法との関係を講義・実習を通じて学んでいく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、中枢神経系の解剖生理 2、システム理論についての理解 3、運動学習理論についての理解 4、運動器系の病態生理と修復の過程の理解 5、基本的な治療方法や痛みに対する運動療法の理解 						
評価方法	<p>前・後期末に筆記試験を行う。総合的に60点以上得点したものに単位を認定する。</p> <p>評価基準については、学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、答えは返却しない。また、担任を通して成績を公表する。</p> <p>不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>中枢神経系の解剖生理学を再復習しておくことを望む。</p> <p>運動器系の解剖学、生理学、運動学を再復習しておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	脳の解剖生理 1	運動に関連した脳の領域について学ぶ。	
2	脳の解剖生理 2	運動連合野について学ぶ。	
3	脳の解剖生理 3	錐体路・錐体外路について学ぶ。	
4	脳の解剖生理 4	小脳について学ぶ。	
5	脳の解剖生理 5	大脳基底核について学ぶ。	
6	運動理論について学ぶ 1	運動理論の種類とその解説。	
7	運動理論について学ぶ 2	システム理論の種類とそれぞれの解説。	
8	運動学習について学ぶ 1	それぞれの運動学習理論について学ぶ。	
9	運動学習について学ぶ 2	シュミットの運動学習理論と三層理論について学習	
10	運動理論の実際の応用について	学んできた運動理論を実際の臨床でどのように解釈し	
11	組織の病態生理と修復 ①	骨折の治癒過程	
12	組織の病態生理と修復 ②	骨壊死の治癒過程	
13	組織の病態生理と修復 ③	軟骨損傷・半月板損傷の治癒過程	
14	組織の病態生理と修復 ④	靭帯損傷・腱損傷の治癒過程	
15	組織の病態生理と修復 ⑤	筋損傷・廃用性筋萎縮	

回	単元	内容	備考
16	組織の病態生理と修復 ⑥	関節拘縮（関節性・軟部組織性）	
17	組織の病態生理と修復 ⑦	関節拘縮（筋性）	
18	組織の病態生理と修復 ⑧	不動と運動の影響	
19	運動の種類 ①	基本的な運動の種類	
20	運動の種類 ②	筋収縮様式からみた運動分類	
21	運動の種類 ③	筋線維タイプの分類とその特徴	
22	基本的な運動療法 ①	関節可動域運動と制限因子	
23	基本的な運動療法 ②	関節可動域運動の種類と目的	
24	基本的な運動療法 ③	関節可動域運動（肩甲帯）	
25	基本的な運動療法 ④	関節可動域運動（肩関節）	
26	基本的な運動療法 ⑤	関節可動域運動（肘関節・手関節）	
27	基本的な運動療法 ⑥	関節可動域運動（手指）	
28	基本的な運動療法 ⑦	関節可動域運動（腰部・股関節）	
29	基本的な運動療法 ⑧	関節可動域運動（膝関節）	
30	基本的な運動療法 ⑨	関節可動域運動（足関節）	

回	単元	内容	備考
31	基本的な運動療法 ⑨	筋力増強運動の概念 筋力に影響する力学的・生理学的要因	
32	基本的な運動療法 ⑩	筋力増強運動の基礎知識	
33	基本的な運動療法 ⑪	筋持久力増大と疲労の関係	
34	基本的な運動療法 ⑫	CKCとOKCの概念と特性	
35	基本的な運動療法 ⑬	IDストレッチングについて	
36	基本的な運動療法 ⑭	IDストレッチング（肩甲帯）	
37	基本的な運動療法 ⑮	IDストレッチング（肩関節）	
38	基本的な運動療法 ⑯	IDストレッチング（肘関節・手関節）	
39	基本的な運動療法 ⑰	IDストレッチング（腰部・股関節）	
40	基本的な運動療法 ⑱	IDストレッチング（膝関節）	
41	基本的な運動療法 ⑲	IDストレッチング（足関節）	
42	痛みに対する運動療法 ①	痛みの定義と原因	
43	痛みに対する運動療法 ②	急性疼痛と慢性疼痛	
44	痛みに対する運動療法 ③	筋肉痛と関節痛 関節構造体の痛み	
45	痛みに対する運動療法 ④	実際的な痛みに対する運動療法	

回	単元	内容	備考
46	呼吸と運動	内呼吸や外呼吸、換気とガス交換について	
47	換気の調節	呼吸中枢、呼吸調節中枢、低酸素による換気反応に	
48	肺機能検査	肺気量分画について理解	
49	低酸素血症の原因	拡散障害、換気血流不均等、死腔、シャントによる	
50	呼吸筋力の弱化、安静臥床に	安静臥床による影響、重力による換気と血流の影響	
51	運動と循環	循環器の役割について学習する	
52	血管収縮拡張機序	血管収縮拡張機序と血流再配分について理解する	
53	安静臥床が循環機能に与える影響	安静臥床により、循環機能に影響を与える因子、	
54	運動と代謝	運動と代謝のメカニズムについて理解する	
55	運動に必要なエネルギー供給	運動特性や時間経過とともに変化するエネルギー供給の	
56	筋線維タイプと代謝	筋線維タイプtype I、type II a、type II bの違い、	
57	運動と代謝の評価	相対的エネルギー代謝率PMRやMETsを理解する	
58	持久力について	全身持久力や局所持久力、疲労の原因について理解する	
59	持久力増強運動	持久力増強運動や無酸素性作業閾値について理解する	
60	後期期末試験	後期行った範囲内での期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	運動療法Ⅱ			担当者	大谷知浩、横山雅人		
<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	標準理学療法学 運動療法学 各論 第4版（医学書院）、 教員が作成したパワーポイント資料をプリントアウトして配布						
科目概要	本講義は、多岐に渡る疾患について、具体的な病態や術式を挙げていきながら、その治療過程を学習すると共に、その臨床推論や運動療法プログラムの立案と実施まで行えるようになる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科疾患の病態と治療予後を理解し、説明することが出来る。 2. 脳血管疾患等の病態と治療予後を理解し、説明することが出来る。 3. 整形外科疾患・脳血管疾患等のそれぞれの疾患に対する治療プログラムを立案することが出来る。 4. 立案したプログラムを、学生同士で実際に実施することが出来る。 						
評価方法	前期・後期末に筆記試験を行う。また、通年時に1度実技試験を行い、筆記試験と総合的に判断する。総合点数で60点以上になった者には単位を認定する。評価基準に関しては学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	整形外科・神経内科の復習を行い、知識と技術の整理をしておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	骨折・脱臼の運動療法①	骨折の種類と治癒過程を理解し、骨折後の理学療法の方法を学ぶ	
2	骨折・脱臼の運動療法②	骨折の種類と治癒過程を理解し、骨折後の理学療法の方法を学ぶ	
3	骨折・脱臼の運動療法③	骨折の種類と治癒過程を理解し、骨折後の理学療法の方法を学ぶ	
4	膝の靭帯・半月板損傷の運動療法	膝の靭帯や半月板損傷の治癒過程や手術療法を理解し、理学療法の進め方と留意点を学ぶ	
5	腱断裂の運動療法	腱断裂の原因や特徴を理解し、術後の具体的な運動療法について学ぶ	
6	関節リウマチの運動療法	関節リウマチの病態を理解し、運動療法や日常生活上の留意点について学ぶ	
7	変形性関節症と人工関節置換術の運動療法	変形性関節症の病態と保存療法や手術療法について学ぶ	
8	側弯症の運動療法	側弯症の病態を理解し、運動療法に加え装具や日常生活指導について学ぶ	
9	腰痛症の運動療法	腰痛症の病態を理解し、評価方法や保存・手術療法について学ぶ	
10	肩関節痛の運動療法	肩関節痛のメカニズムを理解し、肩関節痛に伴う機能障害に対する運動療法を学ぶ	
11	ICUにおける	生命維持装置の専門用語を知り、ハイリスク患者の具体的方法を学ぶ	
12	熱傷の運動療法	熱傷の病態と治癒過程を理解し、運動療法の進め方と留意点について学ぶ	
13	浮腫の運動療法	浮腫の発症機序を知り、運動療法の目的と方法について学ぶ	
14	廃用症候群の運動療法	廃用症候群の概念と種々の影響を理解し、評価と対策について学ぶ	
15	糖尿病の運動療法	糖尿病の概念と特徴を理解し、運動療法の進め方とリスク管理について理解する	

回	単元	内容	備考
16	ケーススタディ整形疾患①	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
17	ケーススタディ整形疾患②	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
18	ケーススタディ整形疾患③	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
19	ケーススタディ整形疾患④	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
20	ケーススタディ中枢疾患①	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
21	ケーススタディ中枢疾患②	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
22	ケーススタディ中枢疾患③	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	
23	ケーススタディ中枢疾患④	ケース情報をまとめ、統合と解釈を通じ運動療法を考える	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	物理療法			担当者	小金澤 清文		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	最新理学療法学講座 物理療法学						
科目概要	<p>物理療法は運動療法とともに主要な治療手技の一つである。本講義では、種々の物理療法について基礎的な原理・方法を学び、実際に物理療法を施行できるようにする。</p> <p>また、国家試験に対応できる学力を身につける。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法の定義、目的について述べられる。 2. 各種物理療法の生理学的作用が説明できる。 3. 適応と禁忌について理解できる。 4. 用いられる機器について説明及び施行できる。 5. 疾患に応じて物理療法を選択することができる。 						
評価方法	<p>前期及び後期末に筆記試験を行う。また、受講態度なども考慮し試験の得点に加える。</p> <p>総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、得点を各学生に知らせる。</p> <p>不合格者については、学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>10のべき乗の計算や、簡単な三角関数などについてを再復習しておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	物理療法総論	物理療法の定義、分類、関連法規・法則	
2	温熱療法 1	温熱療法の定義、生理学的効果	
3	温熱療法 2	伝導熱治療	
4	温熱療法 3	放射熱治療	
5	寒冷療法 1	寒冷療法の概要	
6	寒冷療法 2	伝導冷却	
7	寒冷療法 3	対流冷却法、気化冷却法	
8	電磁波療法 1	電磁波療法の概要、生理学的効果	
9	電磁波療法 2	超短波療法	
10	電磁波療法 3	極超短波療法	
11	超音波療法 1	超短波療法の概要、治療原理	
12	超音波療法 2	超音波療法の生理学的効果	
13	超音波療法 3	超音波療法の臨床	
14	電気刺激療法 1	電気刺激療法の概要、治療原理	
15	電気刺激療法 2	電気刺激療法の生理学的効果、臨床	

回	単元	内容	備考
16	電気刺激療法 3	経皮的末梢神経電気刺激法	
17	電気刺激療法 4	機能的電気刺激法	
18	電気刺激療法 5	干渉電流療法	
19	光線療法 1	光線療法の概要、治療原理	
20	光線療法 2	紫外線療法、低反応レベルレーザー療法	
21	牽引療法 1	牽引療法の概要、治療原理	
22	牽引療法 2	頸椎牽引	
23	牽引療法 3	腰椎牽引	
24	水治療法 1	水治療法の治療原理、生理学的効果	
25	水治療法 2	水治療法の実際	
26	随意運動介助型電気刺激	随意運動介助型電気刺激の概要、生理学的効果	
27	リハビリテーションロボット	HAL、WPAL-G	
28	物理療法の臨床応用 1	骨関節疾患	
29	物理療法の臨床応用 2	脳血管疾患	
30	物理療法の効果判定	電気診断法、表面筋電図	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	日常生活活動			担当者	新井 清代		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	日常生活活動学・生活環境学 第5版（医学書院）,教員作成資料他						
科目概要	臨床場面における理学療法アプローチで重要なADL指導に必要な知識を身につけるとともに国家試験で出題頻度の高いADL評価,疾患別のADL指導方法について理解できるようになる.						
到達目標	①ADL,QOLの概念について理解できる ②ICFの概念を理解し生活機能を各領域に分類することができる ③ADL評価の種類,必要性について理解し評価尺度を実施できる ④自助具,日常生活用具作成,処方における留意点について理解し歩行補助具の適応や車椅子の採寸,介助ができる ⑤障害別特徴からADL評価とプログラム作成を理解し基本的なADL方法と指導を理解する						
評価方法	授業態度（出席状況）5点,課題発表10点,確認試験85点満点の3つ合計で成績を付け60点以上を合格とする.						
課題に対するフィードバック	小テスト採点后答案を返却し解説を行う.期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする.						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	使用教科書を事前に読み予習を行うのが望ましい.						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	A D L ・ I A D L の概念	ADLの歴史とADLの概念と範囲	
2	I C F の概念	ICD,ICIDH,ICFのつながりとICF概念,ICF分類	
3	A D L 評価	ADL評価の種類と実施方法	
4	ADL支援機器 一歩行補助具：実技	ADL支援機器の種類と適応	
5	複合動作指導（実技中心）	複合動作指導方法	
6	脳血管障害の疾患特性・障害像	片麻痺患者の障害像	
7	脳血管障害患者の動作 （実技中心）	起居動作における動作指導方法	
8	脳血管障害患者の動作 （実技中心）	移動動作および他のADL動作指導方法	
9	パーキンソン病の疾患 特性・障害像	パーキンソン病患者の障害像	
10	パーキンソン病患者の動作 （実技中心）	ADL動作指導方法	
11	前期の復習・テスト範囲 復習	前期学習した範囲のノートまとめや質問事項確認	
12	症例検討・発表準備	片麻痺患者,パーキンソン病患者の模擬症例から課題動作指導方法を班ごとに調べ発表する	
13	テスト前勉強	期末試験向けの自己学習	
14	症例検討・発表	片麻痺患者,パーキンソン病患者の模擬症例から課題動作指導方法を班ごとに調べ発表する	
15	前期末テスト	前期行った範囲内での期末試験	

回	単元	内容	備考
16	脊髄損傷の疾患特性・障害像	脊髄損傷患者の障害像	
17	脊髄損傷のADL指導	脊髄損傷患者のADL動作指導方法	
18	脳性まひ患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
19	関節リウマチ患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
20	下肢切断患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
21	人工股関節術後患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
22	呼吸,循環器疾患患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
23	神経筋疾患・難病患者の疾患,特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
24	高次脳機能障害・認知症患者の疾患特性・障害像とADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
25	症例検討・発表準備	後期勉強した疾患を呈した患者の模擬症例から課題動作指導方法を班ごとに調べ発表する	
26	在宅生活に向けたADL指導	疾患特性から障害像を予測しADL指導を行う	
27	症例検討・発表	後期勉強した疾患を呈した患者の模擬症例から課題動作指導方法を班ごとに調べ発表する	
28	ADL指導の実際	今で学んできたことが臨床でどのように展開されていくかについて具体的に学ぶ	
29	後期テスト前勉強	期末試験向けの自己学習	
30	後期期末試験	後期行った範囲内での期末試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	60	対象年次	2年次
科目名	義肢・装具学			担当者	根上 雅臣		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	教科書、プリント、実物、動画など						
科目概要	理学療法士として必要な義肢装具の理論および実際について臨床経験のある教員が講義する。これまで学んだ解剖学、運動学などを基盤とし更にバイオメカニクス理論を取り入れながら理学療法専門科目である義肢装具について理解を深める。義肢装具の種類と目的、各装具の機能、および各種疾患に対する装具の適応について学習する。						
到達目標	①断端管理（ソフトドレッシング）の基本ができる。 ②義肢装具の名称、機能を説明できる ③疾患、障がいに応じて適切な義肢装具を選択できる ④チェックアウトができる ⑤簡単なアライメント調整ができる ⑥医師、義肢装具士、作業療法士と連携し適切なサービス提供するための基礎を習得						
評価方法	前期・後期それぞれの定期テスト 実技テスト 小テストの結果						
課題に対するフィードバック	テストが不可の場合、再試験、レポート提出						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	解剖学、運動学、整形外科、中枢神経疾患について復習すること						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	義肢学 1	切断総論	
2	義肢学2	断端管理	
3	義肢学3	ソフトドレッシング実技1	
4	義肢学4	ソフトドレッシング実技テスト	
5	義肢学 5	義肢総論1	
6	義肢学6	義肢総論 2	
7	義肢学7	下腿義足総論	
8	義肢学8	下腿義足の種類	
9	義肢学9	下腿義足アライメント	
10	義肢学10	大腿義足総論	
11	義肢学11	大腿義足の種類	
12	義肢学12	大腿義足アライメント	
13	義肢学13	大腿義足ダイナミックアライメント	
14	義肢学14	股義足、膝義足、サイム義足など	
15	義肢学15	復習、まとめ、小テスト	

回	単元	内容	備考
16	装具学1	装具総論	
17	装具学2	装具のパーツ	
18	装具学3	脳卒中片麻痺の装具1	
19	装具学4	脳卒中片麻痺の装具2	
20	装具学5	脳卒中片麻痺の装具3	
21	装具学6	整形外科の装具1	
22	装具学7	整形外科の装具2	
23	装具学8	整形外科の装具3	
24	装具学9	対麻痺の下肢装具	
25	装具学10	小児装具1	
26	装具学11	小児装具2	
27	装具学12	体幹装具1	
28	装具学13	体幹装具2	
29	装具学14	上肢装具	
30	装具学15	まとめ、復習、小テスト	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	75	対象年次	3年次
科目名	技術論Ⅰ		担当者	大塚 智文、小林 伸二、 井口 正史、赤石 翔一			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	なし（講義ごとにプリント配布）						
科目概要	運動器疾患に対する知識並びに理学療法の基礎知識を基に、運動器の各種疾患について評価から治療までの流れ、統合と解釈、注意点、技術を講義・実習を交えて行っていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患における知識を理解できる 2. 運動器疾患における理学療法的評価方法を理解し、実施できる 3. 運動器疾患における理学療法プログラムを理解し、実施できる 4. 運動器疾患におけるリハビリテーション的生活指導ができる 5. 運動器疾患における理論・技術を理解し、教員（講師）の指導の下行える 						
評価方法	出席、授業態度、課題レポート、小テスト、筆記試験にて行う。						
課題に対するフィードバック	課題レポート、小テスト、筆記試験終了後に個人指導を行う。						
履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題に関しては、各自（各グループ）で十分に行ってから授業に臨んでください。 ・ 授業内容をしっかり復習して、身につけて下さい。 						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション	授業の概要、運動器疾患に対する概念	担当：大塚
2	大腿骨頸部骨折（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
3	大腿骨頸部骨折（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
4	大腿骨頸部骨折（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
5	橈骨遠位端骨折（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
6	橈骨遠位端骨折（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
7	橈骨遠位端骨折（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
8	腰部脊柱管狭窄症（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
9	腰部脊柱管狭窄症（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
10	腰部脊柱管狭窄症（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
11	変形性股関節症（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
12	変形性股関節症（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
13	変形性股関節症（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
14	変形性膝関節症（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
15	変形性膝関節症（2）	評価と治療（2）	担当：大塚

回	単元	内容	備考
16	変形性膝関節症（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
17	筆記試験		担当：大塚
18	イントロダクション	授業の心構え	担当：小林
19	触診	タッチの仕方	担当：小林
20	実習で陥りやすい問題点や 解決策（1）	各種評価	担当：小林
21	実習で陥りやすい問題点や 解決策（2）	各種検査	担当：小林
22	実習で陥りやすい問題点や 解決策（3）	歩行や動作	担当：小林
23	実習で陥りやすい問題点や 解決策（4）	運動療法	担当：小林
24	実習で陥りやすい問題点や 解決策（5）	生活動作	担当：小林
25	まとめ	Q&A	担当：小林
26	運動発達学的アプローチ(1)	評価	担当：井口
27	運動発達学的アプローチ(2)	治療	担当：井口
28	症例検討（1）	上肢疾患	担当：赤石
29	症例検討（2）	腰椎疾患	担当：赤石
30	症例検討（3）	下肢疾患	担当：赤石

回	単元	内容	備考
31	症例検討（4）	慢性疼痛疾患	担当：大塚
32	肩関節周囲炎（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
33	肩関節周囲炎（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
34	肩関節周囲炎（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
35	関節リウマチ（1）	評価と治療（1）	担当：大塚
36	関節リウマチ（2）	評価と治療（2）	担当：大塚
37	関節リウマチ（3）	評価と治療（3）	担当：大塚
38	筆記試験		担当：大塚

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	75	対象年次	3
科目名	技術論II			担当者	横山 雅人		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	①ビジュアルレクチャー 神経理学療法学,医歯薬出版／②実践！理学療法評価学,医歯薬出版／③病気が見える脳と神経第2版,メディックメディア／ ④脳卒中の機能障害SIASとFIM,金原出版／⑤臨床運動学,中山書店／⑥運動療法学総論第4版,医学書院／⑦基礎から学ぶ画像の診方第3版,医歯薬出版／ ⑧運動療法学 各論,医学書院						
科目概要	脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症を中心とした神経障害を呈する疾患に対し、理学療法の一般的評価、評価結果を踏まえた統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、理学療法の具体的施行、リスク管理を学ぶ。						
到達目標	1. 神経障害における基本的知識を理解できる。 2. 神経障害における一連の理学療法検査測定が実施できる。 3. 神経障害における理学療法のリスク管理ができる。 4. 神経障害における統合と解釈ができる。 5. 神経障害における理学療法プログラムの立案・実施ができる。						
評価方法	実技テスト・小テスト、ポートフォリオ、前期及び後期末の試験から総合的に判断する。また、受講態度・参加・貢献なども考慮する。下記の割合で総合的に6割以上の者に単位を認定する。期末テストの再試験対象者は、下記の割合で算出され結果において6割未満の者とする。 【期末テスト40%、実技・小テスト・課題30%、ポートフォリオ20%、授業参加・貢献10%】						
課題に対するフィードバック	科目評価結果、試験得点については希望者に知らせる（問題・答案は基本的に非公開）。 不合格者については、学籍番号のみを掲示する						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	授業の受講条件：下記 ・神経障害に関する解剖学・生理学・神経内科・評価（評価学Ⅴの内容）を再学習すること。 ・実技の際は運動できる格好で授業の望むこと（ジャージ）。 ・教員の提示するルールを守り、指示に従うこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	授業ガイダンス 中枢神経障害の基礎知識	シラバス・ポートフォリオ・シャトルカード の説明／中枢神経障害の基礎知識	主な教材 ①③
2	中枢神経障害に必要な基礎知識 脳/脳の構造と機能	必要な基礎知識 脳の可塑性	主な教材 ①③⑥⑦
3	中枢神経障害に必要な基礎知識 脳/脳の構造と機能	脳の機能と構造 脳血管灌流分布	主な教材 ①③⑥⑦
4	中枢神経障害に必要な基礎知識 脳/脳の構造と機能	脳の機能と構造 脳血管灌流分布	主な教材 ①③⑥⑦
5	脳血管障害の基礎知識	基本的病態と治療 回復過程とメカニズム／機能障害	主な教材 ①③⑥
6	脳血管障害の基礎知識	基本的病態と治療 回復過程とメカニズム／機能障害	主な教材 ①③⑥
7	脳血管障害に対する評価-意義・目的・方法	評価の意義・目的 実技確認：片麻痺機能検査・筋緊張検査・協調性検査・姿勢バランス検査	主な教材 ①③⑥
8	脳血管障害に対する評価-意義・目的・方法	実技確認： 片麻痺機能検査・筋緊張検査・協調性検査・姿勢バランス検査	主な教材 ①②③④ ⑥
9	脳血管障害に対する評価-意義・目的・方法	SIAS・高次脳機能障害・ADL評価	主な教材 ①②③④ ⑥
10	脳血管障害に対する理学療法-急性期・回復期・生活期	急性期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
11	脳血管障害に対する理学療法-急性期・回復期・生活期	急性期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
12	脳血管障害に対する理学療法-急性期・回復期・生活期	急性期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
13	脳血管障害に対する理学療法の実際-実技	回復期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
14	脳血管障害に対する理学療法の実際-実技	回復期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
15	脳血管障害に対する理学療法の実際-実技	回復期：検査測定・理学療法の考え方・リスク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧

回	単元	内容	備考
16	脳血管障害に対する理学療法 の実際-実技	回復期：検査測定・理学療法の考え方・リス ク管理・具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
17	高次脳機能障害とその対応	注意障害・半側空間無視・プッシャー現象 検査と治療	主な教材 ①③⑥⑧
18	高次脳機能障害とその対応	注意障害・半側空間無視・プッシャー現象 検査と治療	主な教材 ①③⑥⑧
19	パーキンソン病の病態とその 治療	病態と治療	主な教材 ①③⑥⑧
20	パーキンソン病に対する評価- 意義・目的・方法	検査測定・リスク管理 UPDRS	主な教材 ①③⑥⑧
21	パーキンソン病に対する 理学療法	具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
22	パーキンソン病に対する 理学療法・実技	具体的介入方法	主な教材 ①③⑥⑧
23	脊髄小脳変性症に対する 理学療法-病態・評価・PT	病態・リスク管理・検査測定・考え方	主な教材 ①③⑥⑧
24	脊髄小脳変性症に対する 理学療法-病態・評価・PT	病態・リスク管理・検査測定・考え方	主な教材 ①③⑥⑧
25	理学療法 臨床思考過程	一連の理学療法過程・臨床推論	主な教材 ②
26	理学療法 臨床思考過程	STEP 1～STEP 2 問診・検査測定項目の検討／結果の解釈	主な教材 ②
27	臨床思考過程 統合と解釈	STEP 3：統合と解釈 →情報の統合（生理）ICFに分類	主な教材 ②
28	臨床思考過程 統合と解釈	統合と解釈とは？ STEP 3 4	主な教材 ②
29	臨床思考過程 統合と解釈	ケースからの統合と解釈の実施 STEP 5	主な教材 ②
30	臨床思考過程 統合と解釈	ケースからの統合と解釈の実施 STEP 5／レジュメ作成	主な教材 ②

回	単元	内容	備考
31	ケーススタディ PBL/CBL	ケースからの統合と解釈の実施 STEP 5～9	主な教材 ②
32	ケーススタディ PBL/CBL	ケースからのレジユメの作成①	主な教材 ②
33	ケーススタディ PBL/CBL	ケースからの統合と解釈の実施 グループケーススタディ	主な教材 ②
34	ケーススタディ PBL/CBL	ケースからのレジユメの作成②	主な教材 ②
35	ケーススタディ PBL/CBL	討論と実技	主な教材 ②
36	ケーススタディ PBL/CBL	ケーススタディ③	主な教材 ②
37	ケーススタディ PBL/CBL	治療プログラム発表	主な教材 ②
38	ケーススタディ PBL/CBL	治療プログラム発表	主な教材 ②

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	技術論III			担当者	佐藤 友彦		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	理学療法学講座 内部障害理学療法学(医歯薬出版)						
科目概要	<p>呼吸器疾患においては、慢性閉塞性肺疾患を中心に呼吸介助手技や体位排痰法について学び、評価から治療までの流れを習得する。</p> <p>循環器疾患においては、狭心症・心筋梗塞を中心に評価から治療までの流れを習得する。</p> <p>その他、糖尿病のリハビリテーションについても学んでいく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部障害における知識を理解できる。 2. 内部障害における理学療法的評価方法を理解できる。 3. 内部障害における理学療法プログラムを理解できる。 4. 内部障害におけるリハビリテーション的生活指導ができる。 5. 心電図上の不整脈を見つけ、説明できる。 						
評価方法	<p>前期及び後期末に筆記試験を行う。また、受講態度なども考慮し試験の得点に加える。</p> <p>総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>評価基準については学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、得点を各学生に知らせる。</p> <p>不合格者については、学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>呼吸器や循環器など内部障害に関する解剖学や生理学について再学習しておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	内部障害理学療法学総論	内部障害の定義 内部障害の認定	
2	呼吸器の構造と 呼吸調節機能	呼吸器の構造 呼吸調節機能のメカニズム	
3	呼吸器機能評価の 意義と方法 1	スパイログラム（肺気量分画） 換気障害の判定	
4	呼吸器機能評価の 意義と方法 2	フローボリューム曲線 視診、触診、聴診、打診	
5	呼吸機能検査	運動負荷試験 血液ガスと呼吸機能	
6	慢性閉塞性肺疾患 1	COPDの病態 COPDの理学療法評価	
7	慢性閉塞性肺疾患 2	全身持久力・筋力トレーニング ADLトレーニング	
8	気管支喘息、肺気腫	特徴と治療法 理学療法	
9	排痰法	体位排痰法 ハフティング、咳嗽	
10	胸郭可動域練習	徒手胸郭伸張法、シルベスター法	
11	代謝障害	肥満度の判定 肥満と高血圧・脂質異常症の関係	
12	エネルギー消費量	身体活動の強さを表すMET s 身体活動の量を表すMET s・時	
13	糖尿病の治療と運動療法	糖尿病の種類、症状、指標 糖尿病の治療	
14	心臓リハビリテーション の概要	心臓リハビリテーションの定義と目的 構成要素と効果	
15	虚血性心疾患の理学療法	狭心症と心筋梗塞 虚血性心疾患の治療と理学療法	

回	単元	内容	備考
16	心不全の理学療法	心不全の病態、分類と症状 心不全の運動療法	
17	大動脈疾患の理学療法	大動脈瘤・大動脈解離の分類 大動脈疾患の治療と理学療法	
18	閉塞性動脈硬化症の 理学療法	症状と重症度分類 治療法と理学療法	
19	不整脈と心電図の診かた	心電図の基本波形 頻脈・徐脈、期外収縮、心房細動など	
20	不整脈と心電図の診かた	房室ブロック 虚血・梗塞、不整脈の問題点	
21	運動処方 1	運動負荷試験の目的 運動負荷試験の中止基準	
22	運動処方 2	運動処方の作成 6分間歩行試験、Borgスケール	
23	再発予防とチーム医療	動脈硬化の危険因子 心不全の再発予防	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義・演習	
学科名	理学療法学科				配当時間	46	対象年次	3年次
科目名	技術論IV				担当者	横山 大輝		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	頸髄損傷のリハビリテーション、義肢装具学、配布資料							
科目概要	<p>前期には脊髄損傷について学習する。脊髄損傷患者は、これまでスポーツ中の事故や交通事故など、若い年齢の受傷者が多かった。若い年齢で受傷したが故に、身体機能面での向上以外でも精神面でのサポート、福祉機器の選択など、より患者に寄り添った理学療法を展開できるよう学習していく。</p> <p>後期には、2年次に学習した義肢装具学の知識に加え、本講義では下肢切断者におけるリハビリテーションについて学習していく。</p>							
到達目標	<p>1、脊髄損傷の疫学・病態を理解し、病期に合わせた評価法が行えるようになる。</p> <p>2、脊髄損傷患者の病期に適した治療、及び日常生活動作の動作練習を行うことができ、各症状に合わせた生活環境の整備ができるようになる。</p> <p>3、下肢切断者の病態を理解し、症状に合わせた義足の調整等の理学療法ができるようになる。</p>							
評価方法	<p>前期はTeam-Based Learning(TBL)による講義を4回実施する。前期の成績割合は期末試験の成績が7割、TBLの成績(講義毎テスト、グループテスト、ピア評価)が3割とする。</p> <p>後期は単元ごとの小テスト並びに、期末テストの点数、グループ活動における提出物から総合的に評価する。</p>							
課題に対するフィードバック	<p>各単元ごとの小テストの返却及び解説の実施。</p> <p>本試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。</p>							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<p>毎講義で小テストを実施する為、前回講義までの内容を復習しておく。</p> <p>脊髄損傷、下肢切断、双方ともに解剖学を復習しておく。</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	イントロダクション、疫学	脊髄解剖の復習、疫学について学習する	
2	病態	全体を通じた病態を学習する。解剖学等の基礎知識の復習も併せて行う。	
3	急性期治療①	手術療法、排尿管理等の全身状態のリスク管理を中心に学習する。	
4	急性期治療②	急性期治療①に引き続き、リハビリテーションについて学習する。	
5	車椅子（種類、操作）	回復期に生じうる症状（褥瘡や異所性骨化など）を学習する。	
6	起居動作、画像所見	患者自身による起居動作の方法訓練を実技を通して学習する。画像の診かたを学習する。	
7	回復期治療①	回復期のリハビリテーションを中心とした治療学を学習する。	
8	回復期治療②	回復期のリハビリテーションを中心とした治療学を学習する。	
9	合併症概要①	合併症の予防と対策について学習する。	
10	合併症概要②	合併症の予防と対策について学習する。	
11	障害受容、評価法	脊髄損傷患者に起こり得る心理的变化を学習する。 病期に合わせた評価法を学習する。	
12	トランスファー	障害レベルに合わせたトランスファーを学習する。	
13	排尿・排便機序、 対麻痺患者の歩行	排尿・便のメカニズムについて学習する。損傷レベルに合わせた歩行を学習する。	
14	環境整備、福祉機器に ついて 自動車運転について	生活期に必要な住環境の調整について学習する。 自動車運転について学習する。	
15	期末試験	前期講義の期末試験を実施する。	

回	単元	内容	備考
16	前期範囲の復習 イントロダクション	下肢切断患者に対するリハビリテーションの概要を学習する。	
17	切断原因、疫学	内科疾患に加えて途上国では地雷による切断者も存在することを踏まえ、疫学について学習する。	
18	義足アライアメント 異常歩行	異常歩行については国家試験に頻発する為、国家試験問題が解けるよう学習する。	
19	症例検討①	グループ学習により、模擬症例を用いて評価項目の選択から評価までを実施する。	
20	症例検討②	グループ学習により、模擬症例を用いて評価項目の選択から評価までを実施する。	
21	症例検討③	グループ学習により、模擬症例を用いて評価項目の選択から評価までを実施する。	
22	症例検討④	グループ学習により、模擬症例を用いて評価項目の選択から評価までを実施する。	
23	期末試験	後期講義の期末試験を実施する。	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	運動傷害の理学療法			担当者	小野 浩		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	スポーツ外傷・傷害の理学診療・理学療法ガイド（その他、個別に作成した資料）						
科目概要	本講義は、近年クローズアップされてきている健康志向や、各種スポーツ選手のケアに適応できるようになるため、スポーツを通してトレーニングの方法や、競技復帰までの一連の作業を学習すると共に、再発予防のための身体的メカニズムを知ること、健康維持としての側面で理学療法士がどのように介入していくことが望まれるのかを知ることが出来る。						
到達目標	スポーツに関与する疾患の知識を深め、予防的観点とか治療的観点から、リハビリテーションプログラムの立案と実施が出来るようになる。						
評価方法	前期・後期末に筆記試験を行う。また、通年時に1度実技試験を行い、筆記試験と総合的に判断する。 総合点数で60点以上になった者には単位を認定する。 評価基準に関しては学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容を個別説明する。不合格者に関しては、学籍番号のみを掲示。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	整形外科的要素が強い為、整形外科で学んだところをもう一度整理しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	スポーツ傷害とは	スポーツ外傷と傷害の違いや、その成り立ちについて学習する	
2	問診・診察の方法	患者を診察する時の実際の方法について学習する	
3	トレーニングの方法	トレーニングの方法や条件、リスクなどを理解し、安全に運動が行えるようにする	
4	栄養と休息	身体機能を上げるために必要な要素である、休息や栄養の正しい取り方を理解する。	
5	筋肉痛のメカニズム	筋肉痛を科学的に分析し、そのメカニズムを理解する	
6	女性アスリートとの関わり	女性アスリート特有の身体的・心理的特徴を、正しく理解する。	
7	緊急時対応の方法	プレー中の事故に対する正しい対応策について学習する。	
8	スポーツ関連疾患（総論）	スポーツ時に好発する疾病に関する詳細を、正しく理解する。（総論）	
9	頸椎関連疾患	スポーツ時に好発する頸部・頸椎疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
10	肩関節関連疾患	スポーツ時に好発する肩関節・肩甲帯疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
11	肘・手指関節関連疾患	スポーツ時に好発する肘関節・前腕・手指疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
12	体幹関連疾患	スポーツ時に好発する体幹・腰部疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
13	股関節関連疾患	スポーツ時に好発する股関節・大腿部疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
14	膝関節関連疾患	スポーツ時に好発する膝関節関連疾病に関する詳細を、正しく理解する。	
15	足関節関連疾患	スポーツ時に好発する足関節・足部疾病に関する詳細を、正しく理解する。	

回	単元	内容	備考
16	脳挫傷・顔面損傷	スポーツ時に起こる可能性がある頭部外傷・顔面損傷について、正しく理解する。	
17	心停止・救急搬送	スポーツ時のリスクを循環器の目線から正しく理解し、患者様の危険回避につなげる。	
18	テーピング（総論）	テーピングの有用性や危険性を学習し、実際に巻き方の基本を学ぶ。	
19	テーピング（上肢）	肩関節・肘関節。手関節・手指の各部位において、代表的なテープの巻き方を学ぶ。	
20	テーピング（膝関連）	膝関節において、代表的なテープの巻き方を学び、実際に学生同士で実施する。	
21	テーピング（足関連）	足関節において、代表的なテープの巻き方を学び、実際に学生同士で実施する。	
22	テーピング（体幹）	体幹や肉離れにおける代表的なテープの巻き方を学び、実際に学生同士で実施する。	
23	まとめ	スポーツ傷害が起きやすい環境や、起こらないようにするための予防的対応を学ぶ。	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	前期	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	地域理学療法学			担当者	小野 浩		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	地域理学療法学 第3版(医歯薬出版株式会社),教員作成資料他						
科目概要	地域包括ケアシステムの推進に伴い、地域における理学療法の役割は大きくなっている。高齢化が進む中、多様な住まいのあり方が求められ、地域で人々が安全、安心に暮らせるように支援していく事が大切になってくる。本講義では時代背景も踏まえ、社会に求められる地域理学療法について学習していく。						
到達目標	①地域理学療法の定義について説明できる。 ②地域理学療法における介護保険の役割を概説できる。 ③地域理学療法における社会資源について概説できる。 ④地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を概説できる。 ⑤地域における多職種連携の大切さを概説できる。						
評価方法	授業態度や出席状況10点、課題発表10点、筆記試験80点の3項目合計で成績判定し、60点以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	小テスト採点後に解説を行う。期末試験不合格者については学籍番号のみ提示とする。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	使用教科書を事前に読み予習を行うのが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	地域リハビリテーションの概要	
2	地域理学療法について	病期別のリハビリテーションと地域理学療法	
3	地域理学療法の対象者	具体的な例を参考に地域理学療法の対象者の理解を深める	
4	介護保険制度	介護保険の概要を理解する	
5	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの推進に伴う地域理学療法のあり方について学習する	
6	障害者福祉における地域理学療法	障害者総合支援法のポイントを理解し、支援方法について学習する	
7	地域における社会資源	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの分類ができる	
8	介護保険下での地域理学療法①	介護保険制度の理解を深める	
9	介護保険下での地域理学療法②	介護保険下での地域理学療法の展開について学習する	
10	施設と在宅生活でのリハビリテーション	施設サービスと居宅サービスの理解を深める	
11	在宅医療に関わる知識（呼吸）	在宅酸素療法について学習する	
12	在宅医療に関わる知識（栄養状態）	在宅における栄養状態、摂取方法について学習する	
13	在宅医療に関わる知識（褥瘡）	褥瘡発生機序を理解し、褥瘡予防について学習する	
14	健康状態の評価とリスク管理	特に注意すべきリスクについて学び、評価できるように学習する	
15	前期期末テスト	前期行った範囲内での期末試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	実習	
学科名	理学療法学科				配当時間	45	対象年次	2年次
科目名	見学実習				担当者	吉田 敏哉 他理学療法学科全教員		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト：理学療法評価法、日常生活活動など							
科目概要	臨床実習指導者のもと、実際の医療および福祉の現場を見学する。それまで学んできた知識を確認するとともに、実習指導者の理学療法士としての立ち振る舞いやコミュニケーションの取り方などから将来自分がなりたい理学療法士像をイメージする。また、理学療法士の業務内容や多職種との連携について理解を深める。さらに実際の対象者とコミュニケーションを図ることにより医療従事者となることに対し自覚を促す。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設について説明できる ・実習についての正確な記録ができる ・実習で得た知識や経験を自己の成長に結びつける ・理学療法士の業務内容や役割について説明できる ・コミュニケーション能力を高める ・理学療法の過程、実施方法について理解を深める 							
評価方法	出欠表、目標シート、実習行動記録、実習ケースレポートの提出を義務付け、教員による審査を行う。また、実習報告の内容についても評価する。							
課題に対するフィードバック	実習報告をグループごとに行い、各発表ごとに学生同士の質疑応答及び教員によるフィードバックを行う。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	理学療法評価学、日常生活活動やリハビリテーション概論等で学習した内容を復習するとともに自分なりに分かりやすくまとめておく。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	見学実習 1	実習施設における実習 1日目	
2	見学実習 2	実習施設における実習 2日目	
3	見学実習 3	実習施設における実習 3日目	
4	見学実習 4	実習施設における実習 4日目	
5	見学実習 5	実習施設における実習 5日目	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	後期	形態	実習
学科名	理学療法学科			配当時間	135	対象年次	3年次
科目名	評価実習		担当者	吉田 敏哉			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	理学療法評価学 他						
科目概要	<p>実習施設の役割や機能、各医療福祉従事者と対象者の関わりを学ぶとともに理学療法士の業務と対象者の抱える様々な問題点について具体的に学ぶ。また、学内で学んだ知識・技術を用いて対象者の評価を行い問題点を抽出した上でゴール設定を行い、治療プログラムを立案する。さらに理学療法士の業務とその範囲を理解する。4年次の臨床実習の前段階として様々な経験を積む。</p>						
到達目標	<p>①対象者に対し問診を行なった上で適切な検査測定その他動作観察などの評価を行うことができる。</p> <p>②評価結果をもとに問題点を挙げることができる。</p> <p>③問題点に対し治療プログラムを立案することができる。</p> <p>④適切なゴール設定ができる。</p> <p>⑤実習生として対象者や実習施設内のスタッフと適切に関わることができる。</p> <p>⑥理学療法士の業務について理解する。</p>						
評価方法	実習遂行状況50% レジューメ30% 実習後プレゼンテーション20%						
課題に対するフィードバック	各実習地担当教員が提出書類をもとに個別にフィードバックを行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	1・2年時履修した理学療法評価学について復習する。評価学で学んだ検査測定等の実技の練習を十分に行う。事前に実習施設で担当するであろう対象者について情報収集を行い基礎知識を身につけておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	施設内実習	1.施設内見学	
2	施設内実習	2.各医療福祉従事者との関わり	
3	施設内実習	3.対象者に対する評価の実施	
4	施設内実習	4.問題点の抽出	
5	施設内実習	5.ゴール設定	
6	施設内実習	6.治療プログラムの立案	
7	施設内実習	7.理学療法士の業務とその業務範囲の理解	
8	施設内実習	以上7項目に関する実習を3週間行う	
9	施設内実習		
10	施設内実習		
11	施設内実習		
12	施設内実習		
13	施設内実習		
14	施設内実習		
15	施設内実習		

履修区分	必修	単位数	9	開講時期	前期	形態	実習	
学科名	理学療法学科			配当時間	405	対象年次	4年次	
科目名	臨床実習Ⅰ			担当者	小野 浩			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
使用教材	3年次までに使用した全ての教科書							
科目概要	医療施設で9週間の臨床実習を行う。臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラムの実施までの一連のプロセスを経験する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。							
到達目標	1.臨床実習指導者の指導の下、対象者様に合わせた、評価を選択・実施することができる。 2.評価結果から統合と解釈を行い、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案を行うことができる。 3.臨床実習指導者の指導の下、対象者様に合わせた治療プログラムを実施することができる。							
評価方法	臨床実習指導者の評価に基づいて評定を決める。							
課題に対するフィードバック	実習終了後、個人に対して指導を行う。							
履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)	臨床実習指導者の指導の下、理学療法士として必要な態度、知識、技術を最大限に学べるように、3年間で学習したことに加えて、臨床実習で経験したことを総動員してください。 指導を受けたことをまとめたり、翌日の準備のための自己学習を怠らないようにすること。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習先により異なる	各自異なる実習先にて405時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	9	開講時期	後期	形態	実習	
学科名	理学療法学科			配当時間	405	対象年次	4年次	
科目名	臨床実習Ⅱ			担当者	大塚 智文			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
使用教材	3年次までに使用した全ての教科書							
科目概要	医療施設で9週間の臨床実習を行う。臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラムの実施までの一連のプロセスを経験する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。							
到達目標	<p>1.臨床実習指導者の指導の下、対象者様に合わせた、評価を選択・実施することができる。</p> <p>2.評価結果から統合と解釈を行い、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案を行うことができる。</p> <p>3.臨床実習指導者の指導の下、対象者様に合わせた治療プログラムを実施することができる。</p>							
評価方法	臨床実習指導者の評価に基づいて評定を決める。							
課題に対するフィードバック	実習終了後、個人に対して指導を行う。							
履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)	臨床実習指導者の指導の下、理学療法士として必要な態度、知識、技術を最大限に学べるように、3年間で学習したことに加えて、臨床実習で経験したことを総動員してください。指導を受けたことをまとめたり、翌日の準備のための自己学習を怠らないようにすること。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習先により異なる	各自異なる実習先にて405時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	実習
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	3年次
科目名	臨床実習前評価		担当者	吉田 敏哉 他教員オムニバス形式			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	PT/OTのための臨床技能とOSCE 理学療法評価学 その他教員作成資料						
科目概要	臨床実習において重要な項目である、対象に対する接遇、理学療法評価技術ならびに臨床推論や治療技術について一連の流れとして理解し、実施できるよう学内での実習を行う。						
到達目標	<p>①対象者への説明を含めた接遇面での配慮が円滑にかつ丁寧に行える。</p> <p>②正しい方法で評価を行いその結果から対象者の全体像を捉えることができる。</p> <p>③問題点の抽出からプログラムの立案を適切に行うことができる。</p> <p>④プログラムを正しい方法で適切に実施することができる。</p>						
評価方法	筆記および実技試験を行い総合的に判断する。						
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容について個別に説明するとともに口頭または実技を交えながらフィードバックを行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	1・2年次履修した実技の科目について復習するとともに実技練習を十分行うこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	バイタルチェック・問診	バイタル測定および問診実技	
2	感覚検査・反射テスト	感覚および反射についての実技と解釈	
3	筋力測定・筋力訓練	筋力測定およびトレーニングの実施実技	
4	関節可動域測定・訓練	可動域の測定後拡大訓練の実施	
5	各形態測定	四肢長・周径を測り推論を立てる	
6	疼痛検査	疼痛検査実技と解釈	
7	ADL評価	BI・FIMでの評価実施と解釈	
8	筋緊張検査	検査実施と解釈	
9	脳神経検査	各脳神経検査の実施と解釈	
10	高次脳機能検査	各高次脳機能検査の実施と解釈	
11	協調性検査	協調性検査検査の実施と解釈	
12	整形外科的テスト	スペシャルテストの実施と解釈	
13	各動作分析	動作分析からの問題点の抽出	
14	起居動作訓練	起居動作自立に向けた訓練の実施	
15	移乗訓練	移乗動作自立に向けた訓練の実施	

回	単元	内容	備考
16	起立・立位バランス訓練	歩行獲得を目指しバランス訓練を行う	
17	歩行訓練	歩行自立を目指し歩行訓練の実施	
18	スタンダードプリコーション	感染予防策の理解および実施	
19	促通手技	主に片麻痺患者に対する治療の実施	
20	片麻痺機能検査	脳卒中片麻痺患者の機能評価実施	
21	統合と解釈	評価の結果から全体像を把握する	
22	プログラムの立案者	理学療法プログラムを立案する	
23	コーチング	対象者の意欲向上スキルを身につける	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	実習
学科名	理学療法学科			配当時間	45	対象年次	4年次
科目名	臨床実習後評価		担当者	他教員オムニバス形式			
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	PT/OTのための臨床技能とOSCE 理学療法評価学 その他教員作成資料						
科目概要	臨床実習で重要な項目である、対象に対する接遇、理学療法評価技術ならびに臨床推論や治療技術についての一連の流れを臨床実習を経験したことにより、理解し、実施できることを前提に学内での実習を行う。						
到達目標	<p>①対象者への説明を含めた接遇面での配慮が円滑にかつ丁寧に行える。</p> <p>②正しい方法で評価を行いその結果から対象者の全体像を捉えることができる。</p> <p>③問題点の抽出からプログラムの立案を適切に行うことができる。</p> <p>④プログラムを正しい方法で適切に実施することができる。</p>						
評価方法	筆記および実技試験を行い総合的に判断する。						
課題に対するフィードバック	試験採点后、点数と内容について個別に説明するとともに口頭または実技指導をまじえながらフィードバックを行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	1・2年次履修した実技の科目について復習するとともに実技練習を十分行うこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	バイタルチェック・問診	バイタル測定および問診実技	
2	感覚・疼痛・反射・検査 及び形態測定	感覚・疼痛および反射、形態測定についての実 技と解釈	
3	MMT・ROMT及び訓練	MMT・ROMT・筋力訓練・可動域拡大の実施 実技と解釈	
4	ADL評価	BI・FIMでの評価実施と解釈	
5	中枢神経系の評価	筋緊張・脳神経・高次機能・協調性などの検査 実施と解釈	
6	整形外科的テスト	スペシャルテストの実施と解釈	
7	動作分析	動作分析からの問題点の抽出	
8	起居移乗動作訓練	起居移乗動作自立に向けた訓練の実施	
9	起立・立位バランス訓練	歩行獲得を目指しバランス訓練を行う	
10	歩行訓練	歩行自立を目指し歩行訓練の実施	
11	中枢の知識 1	中枢神経疾患の画像の診断について学ぶ	
12	中枢の知識 2	中枢神経疾患のそれぞれの特徴と治療法につい て学ぶ。	
13	中枢の知識 3	中枢神経疾患の評価法や各種検査法について学 ぶ。	
14	整形外科疾患の知識 1	代表的な整形外科疾患の病態と症状を理解す る。	
15	整形外科疾患の知識 2	代表的な整形外科疾患の画像を学ぶ。	

回	単元	内容	備考
16	整形外科疾患の知識 3	代表的な整形外科疾患の治療について学ぶ。	
17	呼吸の知識	呼吸器の知識と各疾患、その治療を学ぶ。	
18	心臓の知識	循環系の知識と各疾患、それぞれの治療を学ぶ。	
19	代謝疾患のリハビリテーション	代謝疾患（糖尿病）の理解とその治療について学ぶ。	
20	統合と解釈の方法	各評価項目から考えられるアセスメントを導き出す事ができる。	
21	ゴールの設定について	問題点とゴール設定プログラムのつながりや予後予測を含めたゴール設定について学ぶ。	
22	プログラムの立案・実施	それぞれの疾患のプログラムを立案実施できるようにする。	
23	コーチング	メディカルコーチングを学び患者の意欲向上スキルを学習する。	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	理学療法学科			配当時間	180	対象年次	4年次
科目名	総合演習			担当者	吉田 敏哉 他		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキストおよび教員作成プリント						
科目概要	最終学年での総復習として解剖学、生理学、病理学、内科学、整形外科学、神経内科学、運動学など理学療法士として臨床で必要とされる基礎知識を再学習する。						
到達目標	<p>1.解剖学、生理学、運動学および臨床医学を再度学習し、それを基礎として理学療法士が関わる疾患・障害について理解を深める。</p> <p>2.様々な疾患や障害に対して行う理学療法を正しく選択できる。</p>						
評価方法	前期および後期それぞれ期末試験を行う。60点以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后個別にフィードバックを行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	1年生から3年生までに履修した科目を復習しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖生理学Ⅰ	解剖生理の植物機能についての概要	
2	循環器系①	脈管系、胎児循環、心臓、刺激伝導系について	
3	循環器系②	循環の生理、頸動脈洞反射、血液細胞（赤血球・白血球・血小板）について	
4	消化器系①	消化酵素、唾液、咀嚼、嚥下、消化管の構造と消化器能	
5	消化器系②	排便の生理、肝臓と胆嚢、膵臓の構造と生理機能	
6	泌尿器系	腎臓の解剖、腎臓の生理機能、泌尿器の構造、排尿の生理	
7	呼吸器系	呼吸器系の構造、健常成人の呼吸量、呼吸中枢と呼吸生理、換気と酸塩基平衡	
8	代謝	基礎代謝、エネルギー代謝、体温調節、糖代謝、骨代謝、カルシウム代謝、ビタミン欠乏	
9	内分泌	分泌器官とホルモン、下垂体、甲状腺・副甲状腺、ホルモンの作用	
10	解剖生理学Ⅱ	解剖生理の動物機能についての概要	
11	中枢神経①	中枢神経系の解剖、機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系、大脳皮質の血管支配	
12	中枢神経②	中脳、延髄、脳神経核、生理機能中枢部位、脊髄の構造	
13	中枢神経③	上行・下行伝導路、反射中枢、神経伝達物質	
14	末梢神経①	神経線維の構造、神経線維の種類、脳神経とその働き、副交感神経を含む脳神経	
15	末梢神経②	自律神経、表在感覚の神経支配、腕神経叢、腰神経叢と仙骨神経叢	

回	単元	内容	備考
16	骨格筋①	骨格筋の構造と特徴、運動単位と神経支配比、筋収縮の生理	
17	骨格筋②	筋紡錘、ゴルジ腱器官、伸張反射	
18	感覚	皮膚の構造、感覚受容器、視覚器の構造と機能、視覚伝導路、聴覚・平衡機能、機能局在	
19	運動学①	骨の構造と解剖、骨の分類、関節の構造と分類	
20	運動学②	上肢：肩関節、肘関節、手関節、手部の筋	
21	運動学③	下肢：股関節、膝関節、足関節、足部の筋	
22	運動学④	脊柱：脊柱の構造と運動および筋	
23	正常歩行	歩行時のモーメント、歩行率、歩行周期、重心移動と関節角度、筋活動、神経機構	
24	バイオメカニクス	てこ、筋収縮、仕事と力学的エネルギー	
25	人間発達学	反射と反応、発達過程	
26	内科学①	循環器疾患、代謝生疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患	
27	内科学②	内分泌疾患、膠原病、生活習慣病、腎不全、薬物療法	
28	整形外科①	骨折、小児の骨折、高齢者の骨折、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症	
29	整形外科②	変形性関節症、末梢神経障害、脊髄損傷、切断、骨粗鬆症、脱臼、靭帯損傷	
30	神経内科学①	脳血管障害：脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、一過性虚血発作	

回	単元	内容	備考
31	神経内科学②	高次脳機能障害、パーキンソン病、不随意運動、小脳症状	
32	神経内科③	嚥下障害、頭蓋内圧亢進、正常圧水頭症、運動ニューロン疾患	
33	神経内科④	脱髄生疾患、末梢神経障害、神経筋接合部疾患、筋疾患	
34	臨床心理学①	防衛機制、心理療法	
35	臨床心理学②	障害受容、学習理論、心理発達	
36	精神医学①	統合失調症、気分障害	
37	精神医学②	認知症、せん妄、依存症、薬物医療法	
38	精神医学③	てんかん、神経症性障害、摂食障害	
39	リハビリテーション医学①	廃用症候群、高齢者、老化現象、老年症候群	
40	リハビリテーション医学②	小児疾患、クリニカルパス、評価	
41	リハビリテーション医学③	個人情報保護法、インフォームド・コンセント	
42	物理療法	温熱療法、寒冷療法	
43	リハビリテーション概論	国際生活機能分類	
44	発生と組織①	細胞の基本構造	
45	発生と組織②	発生、DNA	